

ワークフロー別担当者マニュアル

オープンソース ソリューション専門企業
株式会社アンコウソフト

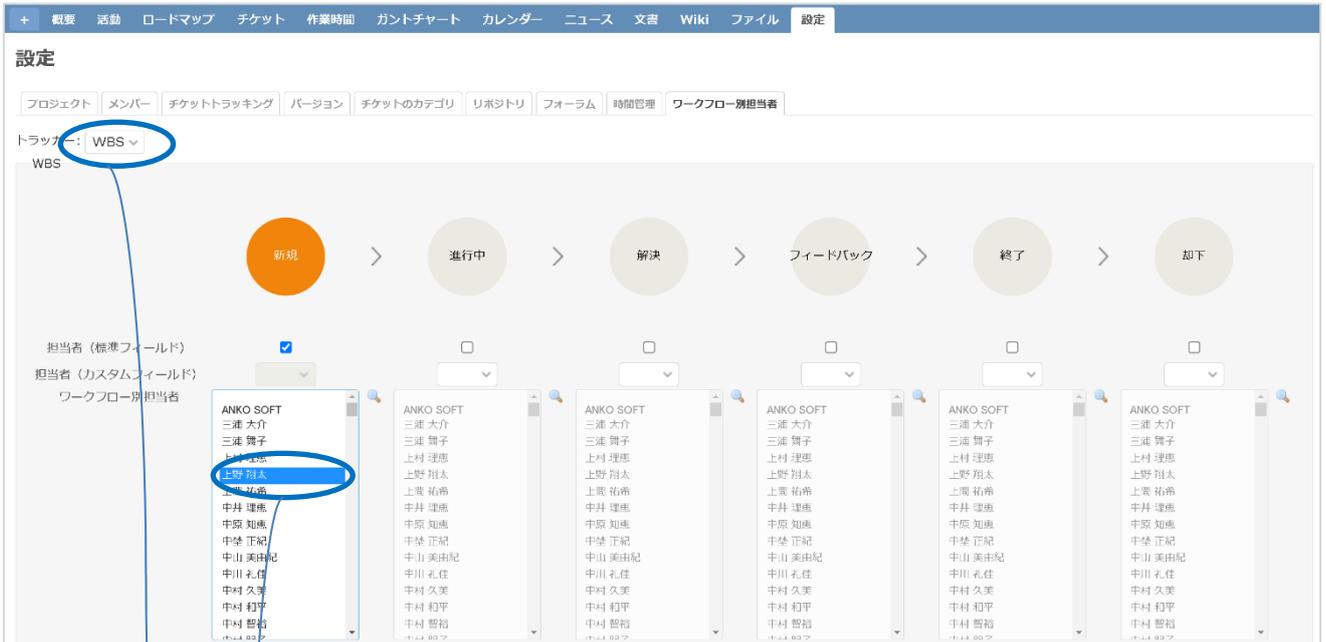
目次

1. 機能紹介	3
1.1 ワークフロー別担当者指定	3
1.2 メールテンプレート	4
1.3 ステータス別完了期限設定	5
2. インストールと支援環境	6
2.1 インストールと支援環境	6
3. プラグインのインストールとアンインストール	7
3.1 インストール (Linux 系列)	7
3.2 アンインストール (Linux 系列)	8
3.3 インストール (Windows 系列)	9
3.4 アンインストール (Windows 系列)	12
3.5 インストールしたプラグインのバージョン確認	13
4. 設定	14
4.1 プラグイン	14
4.2 ライセンスの登録	17
4.3 ワークフロー別ロール	18
4.4 権限	20
4.5 メールテンプレート	22
4.6 プロジェクト設定でワークフロー別担当者	28
4.7 ワークフロー別期日設定	33
4.8 メールテンプレート設定	34
4.9 期日に伴う定期メール送信	35
5. 各機能の使用方法	42
5.1 チケット新規登録	42
5.2 チケットステータスの変更	43
5.3 メールテンプレートでアップデート	45

1. 機能紹介

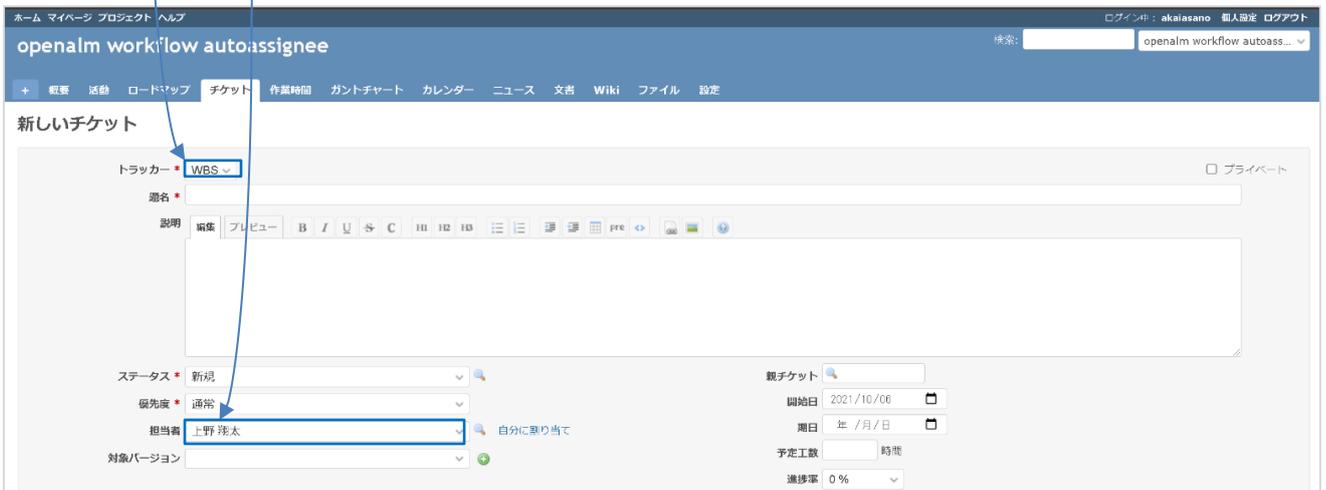
1.1 ワークフロー別担当者指定

- 1) ワークフロー別担当者指定は、トラッカーとワークフロー別に担当者を自動的に指定できる機能で、協業を進める時に必要な機能です。基本の Redmine では担当者欄が一個だけあってステータス別に次の担当者を手動で指定する必要がありました。これは協業をする時に不便だけでなく、最後の担当者は自分の担当チケットとしてチケットが分類されるため、残チケットの追跡確認に困難が伴いました。
- 2) これを改善するために下記のように担当者を指定しておけば、自動で担当者が指定されて、お知らせが新しい担当者にメールで送信されることによって次の担当者が自分に割り当てられたチケットを迅速に確認できます。



<ワークフロー別担当者設定画面>

- 3) 上図の設定のとおり「WBS」トラッカーの新規ステータスの時の担当者欄に「上野 翔太」というユーザーが自動で選択されます。



<ワークフロー別担当者が自動で指定された画面>

1.2 メールテンプレート

- 1) メールテンプレートは基本の Redmine が提供するメール送信機能とは別途に、メールの送信フォーマットを定義してメールを送信することができる機能です。ただし、ワークフロー別担当者に指定されたユーザーにだけメールを送信する機能であり、既存の Redmine のメール送信機能を代替するものではありません。

メールテンプレート >> 新しいメールテンプレート

管理

- プロジェクト
- ユーザー
- グループ
- ロールと権限
- トラッカー
- チケットのステータス
- ワークフロー
- カスタムフィールド
- 選択肢の値
- 設定
- LDAP認証
- システムログ
- メールテンプレート
- ワークフロー別ロール
- プラグイン
- 情報

名称 *

メール題名種別 * メールテンプレート 名称 チケット タイトル

本文 *

プロジェクト	#project_name@
ID	#link_id@
タイトル	#subject@
説明	#description@
担当者	#assigned_to_name@
開始日	#start_date@
期日	#due_date@
ステータス	#status_name@
確認者	#確認者@
テスト結果	#テスト結果@

ボタン * テスト結果 顧客連絡済み IE動作確認済み 未指定

有効にする

<新しいメールテンプレート登録画面>

確認をお願いします。 >>

プロジェクト	openalm workflow autoassignee
ID	#191
タイトル	開発の進捗確認
説明	
担当者	三浦 大介
開始日	2021/11/18
期日	
ステータス	解決
確認者	
テスト結果	

テスト結果(確認)

テスト結果(差し戻し)

<メールテンプレート機能で受信したメール画面>

1.3 ステータス別完了期限設定

- 1) 基本の Redmine で提供するチケットではチケット全体の開始日と期日を指定できますが、チケットのステータス別に期日を指定することができません。これを解決するために日付型のカスタムフィールドでステータス別の期日を指定できる機能です。

設定

プロジェクト メンバー チケットトラッキング バージョン チケットのカテゴリ リポジトリ フォーラム 時間管理 ワークフロー別担当者

トラッカー: WBS

WBS

新規 > 進行中 > 解決 > フィードバック > 終了 > 却下

担当者 (標準フィールド) 確認者 確認者

担当者 (カスタムフィールド) ワークフロー別担当者

担当者 (標準フィールド) ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中庭 知恵 原林 莉蓮 原田 朋成 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの

確認者 ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中庭 知恵 原林 莉蓮 原田 朋成 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの

確認者 ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中庭 知恵 原林 莉蓮 原田 朋成 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの

確認者 ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中庭 知恵 原林 莉蓮 原田 朋成 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの

確認者 ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中庭 知恵 原林 莉蓮 原田 朋成 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの

確認者 ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中庭 知恵 原林 莉蓮 原田 朋成 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの

確認者 ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中庭 知恵 原林 莉蓮 原田 朋成 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの

期日 (カスタムフィールド) 確認日 確認日

メールテンプレート 検討してください 確認をお願いしよ

有効: 保存

<ワークフロー別担当者期日設定画面>

確認日 2021/11/17 にセット

編集 編集 時間を記録 ウォッチ コピー ...

編集

プロパティの変更

プロジェクト * openalm workflow autoassignee プライベート

トラッカー * WBS

題名 * ビジネス ビジョンを定義する

説明 編集

ステータス * 新規 確認者

優先度 * 中

担当者

親子チケット

開始日 2021/10/22

確認方法

中 A-1 A-2

ワークフロー別担当者

ステータス	ユーザー形式カスタムフィールド	担当者	期日対象項目	期日
新規	担当者	ANKO SOFT		
進行中	担当者	ANKO SOFT		
解決	確認者	原林 莉蓮, 白石 美沙登	確認日	2021/11/17
フィードバック				
終了				
却下				

<ワークフロー別担当者のステータス別期日閲覧画面>

2. インストールと支援環境

2.1 インストールと支援環境

- 1) 本製品をインストールして使用するためには下記の環境が必要です。本製品をインストールする前にインストール先環境と支援環境が正しいことをご確認ください。

区分	種別	種類とバージョン	備考
インストール	Redmine	3.x ~ 4.2	
	Ruby	2.0 ~ 2.7	
	Database	Mysql、MariaDB、Postgresql、Microsoft SQL Server	
	Plugins	Openalm Common 1.7.5 以上	本製品と一緒に提供します。
支援環境	Browsers	Chrome、Safari、Edge、Firefox	IE はサポートをしません、IE11 では動作することを確認しています。

- 2) プラグインのインストール環境の確認方法はシステム管理者で Redmine にログイン後、「管理」->「情報」で確認できます。

* ユーザーのアクションが必要な場合は で表示し、結果と参照を示す場合は で表示します。



<プラグインのインストール環境の確認画面>

3. プラグインのインストールとアンインストール

3.1 インストール (Linux 系列)

- 1) インストール環境は顧客の環境によって異なるため、パスなどは顧客環境に読み替えて適用してください。例示では bitnami を使って Redmine をインストールした場合のプラグインのインストール方法で説明します。
- 2) 弊社から提供する圧縮ファイルを下記のパスに解凍してください。

解凍先パス: {REDMINE_ROOT}/plugins

もし `openalm_common` がすでに Redmine にインストールされている場合、インストールされている `openalm_common` と弊社が提供する `openalm_common` のバージョンが同一の場合は、`openalm_common` を新たにインストールする必要がありません。`openalm_common` のファイル名のアンダーバーより右側の数字がバージョンを意味します。

例) ファイル名が「`openalm_common_1.7.5.zip`」の場合、「1.7.5」がバージョンです。

```
#cd /opt/redmine-xxx
#./use_redmine
#cp openalm_common_x.x.x.zip /opt/redmine-xxx/apps/redmine/htdocs/plugins (すでに同一のバージョンがインストールされている場合は省略します。)
#cp openalm_workflow_autoassignee_x.x.x.zip /opt/redmine-xxx/apps/redmine/htdocs/plugins
#cd /opt/redmine-xxx/apps/redmine/htdocs/plugins
#unzip openalm_common_x.x.x.zip (すでに同一のバージョンがインストールされている場合は省略します。)
#unzip openalm_workflow_autoassignee_x.x.x.zip
```

- 3) DB にテーブルを生成します。

```
#cd /opt/redmine-xxx/apps/redmine/htdocs
#bundle exec rake redmine:plugins:migrate RAILS_ENV=production
== 20200205035655 CreateOpenalmCommonHolidays: migrating =====
-- create_table(:openalm_common_holidays, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0273s
== 20200205035655 CreateOpenalmCommonHolidays: migrated (0.0273s) =====
== 20200618054704 CreateOpenalmEmailTemplates: migrating =====
-- create_table(:openalm_email_templates, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0189s
== 20200618054704 CreateOpenalmEmailTemplates: migrated (0.0190s) =====
== 20200622040653 CreateOpenalmUpdateErrorLogs: migrating =====
-- create_table(:openalm_update_error_logs, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0169s
== 20200622040653 CreateOpenalmUpdateErrorLogs: migrated (0.0169s) =====
== 20200622040913 CreateOpenalmEtcErrorLogs: migrating =====
-- create_table(:openalm_etc_error_logs, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0198s
== 20200622040913 CreateOpenalmEtcErrorLogs: migrated (0.0200s) =====
== 20201005073351 AddEmailSubjectToOpenalmEmailTemplates: migrating =====
-- add_column(:openalm_email_templates, :email_subject_type, :string, {:default=>"template"})
-> 0.0121s
== 20201005073351 AddEmailSubjectToOpenalmEmailTemplates: migrated (0.0122s) ==
== 1 CreateOpenalmWorkflowAutoassignees: migrating =====
-- create_table(:openalm_workflow_autoassignees, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0163s
== 1 CreateOpenalmWorkflowAutoassignees: migrated (0.0167s) =====
== 2 CreateOpenalmWorkflowAutoassigneeProjects: migrating =====
-- create_table(:openalm_workflow_autoassignee_projects, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
```

```
-> 0.0162s
== 2 CreateOpenalWorkflowAutoassigneeProjects: migrated (0.0163s) =====
```

- 4) エラーが発生しないで正常に実行できたら web サーバーを再起動させることによってインストールが完了します。

```
#cd /opt/redmine-xxx
#./ctlscrip.sh restart apache
```

3.2 アンインストール(Linux 系列)

- 1) 「openal_workflow_autoassignee」プラグインで使用するテーブルを DB から削除します。テーブル削除後は関連データを復元することはできません。

```
#cd /opt/redmine-xxx
#./use_redmine
#cd /opt/redmine-xxx/apps/redmine/htdocs
#bundle exec rake redmine:plugins:migrate NAME=openal_workflow_autoassignee VERSION=0
RAILS_ENV=production
== 2 CreateOpenalWorkflowAutoassigneeProjects: reverting =====
-- drop_table(:openal_workflow_autoassignee_projects, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0170s
== 2 CreateOpenalWorkflowAutoassigneeProjects: reverted (0.0211s) =====
== 1 CreateOpenalWorkflowAutoassignees: reverting =====
-- drop_table(:openal_workflow_autoassignees, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0176s
```

- 2) 「openal_common」プラグインで使用するテーブルを DB から削除します。テーブル削除後は関連データを復元することはできません。弊社から購入した他のプラグインがある場合は「openal_common」プラグインで使用するテーブルを DB から削除しないでください。「openal_common」プラグインで使用するテーブルを DB から削除すると弊社から購入した他のプラグインが動作しなくなる場合があります。もし「openal_common」プラグインで使用するテーブルを DB から削除しない場合でも Redmine には影響を与えません。

```
#bundle exec rake redmine:plugins:migrate NAME=openal_common VERSION=0 RAILS_ENV=production
== 20201005073351 AddEmailSubjectToOpenalEmailTemplates: reverting =====
-- remove_column(:openal_email_templates, :email_subject_type, :string, {:default=>"template"})
-> 0.1061s
== 20201005073351 AddEmailSubjectToOpenalEmailTemplates: reverted (0.1111s) ==
== 20200622040913 CreateOpenalEtcErrorLogs: reverting =====
-- drop_table(:openal_etc_error_logs, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0297s
== 20200622040913 CreateOpenalEtcErrorLogs: reverted (0.0299s) =====
== 20200622040653 CreateOpenalUpdateErrorLogs: reverting =====
-- drop_table(:openal_update_error_logs, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0180s
== 20200622040653 CreateOpenalUpdateErrorLogs: reverted (0.0183s) =====
== 20200618054704 CreateOpenalEmailTemplates: reverting =====
-- drop_table(:openal_email_templates, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0088s
== 20200618054704 CreateOpenalEmailTemplates: reverted (0.0090s) =====
== 20200205035655 CreateOpenalCommonHolidays: reverting =====
-- drop_table(:openal_common_holidays, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0146s
== 20200205035655 CreateOpenalCommonHolidays: reverted (0.0148s) =====
```

- 3) プラグインフォルダーを削除します。

```
#cd plugins
#rm -rf openalm_workflow_autoassignee
#rm -rf openalm_common (「openalm_common」プラグインを残す必要がある場合は実施をしません。)
```

- 4) エラーがなく正常に実行されたら、web サーバーを再起動するとアンインストールが完了します。

```
#cd /opt/redmine-xxx
#./ctlscrip.sh restart apache
```

3.3 インストール (Windows 系列)

- 1) インストール環境は顧客の環境によって異なるため、パスなどは顧客環境に読み替えて適用してください。例示では bitnami を使って Redmine をインストールした場合のプラグインのインストール方法で説明します。
- 2) 弊社から提供する圧縮ファイルを下記のパスに解凍してください。

解凍先パス: {REDMINE_ROOT}/plugins

もし openalm_common がすでに Redmine にインストールされている場合、インストールされている openalm_common と弊社が提供する openalm_common のバージョンが同一の場合は、openalm_common を新たにインストールする必要がありません。openalm_common のファイル名のアンダーバーより右側の数字がバージョンを意味します。

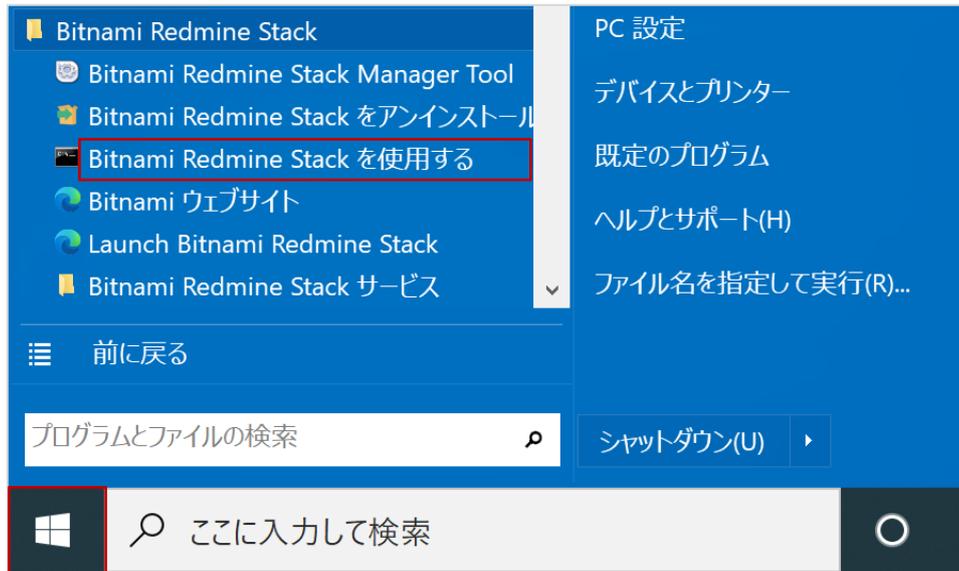
例) ファイル名が「openalm_common_1.7.5.zip」の場合、「1.7.5」がバージョンです。

「C:\Bitnami\redmine-4.2.0-0\apps\redmine\htdocs\plugins\」 (このフォルダパスは環境により異なります。) に「openalm_common」と「openalm_workflow_autoassignee」の2つのフォルダーをコピーします。



<プラグインインストールフォルダー>

- Windows の「スタート」ボタンをクリックして、「Bitnami Redmine Stack」の中の「Bitnami Redmine Stack を使用する」をクリックします。



<「Bitnami Redmine Stack を使用する」画面>

- コマンドプロンプトが起動しますので、「bundle exec rake redmine:plugins:migrate RAILS_ENV=production」を実行します。
下図のように「2 CreateOpenalWorkflowAutoassigneeProjects: migrated」などの文字が表示されれば DB にテーブルが正常に生成されたこととなります。

```
Microsoft Windows [Version 10.0.19042.1288]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Bitnami\redmine-4.2.0\apps\redmine\htdocs>bundle exec rake redmine:plugins:migrate RAILS_ENV=production
== 20200205035655 CreateOpenalCommonHolidays: migrating =====
-- create_table(:openal_common_holidays, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0419s
== 20200205035655 CreateOpenalCommonHolidays: migrated (0.0430s) =====

== 20200618054704 CreateOpenalEmailTemplates: migrating =====
-- create_table(:openal_email_templates, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0405s
== 20200618054704 CreateOpenalEmailTemplates: migrated (0.0415s) =====

== 20200622040653 CreateOpenalUpdateErrorLogs: migrating =====
-- create_table(:openal_update_error_logs, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0439s
== 20200622040653 CreateOpenalUpdateErrorLogs: migrated (0.0445s) =====

== 20200622040913 CreateOpenalEtcErrorLogs: migrating =====
-- create_table(:openal_etc_error_logs, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0337s
== 20200622040913 CreateOpenalEtcErrorLogs: migrated (0.0343s) =====

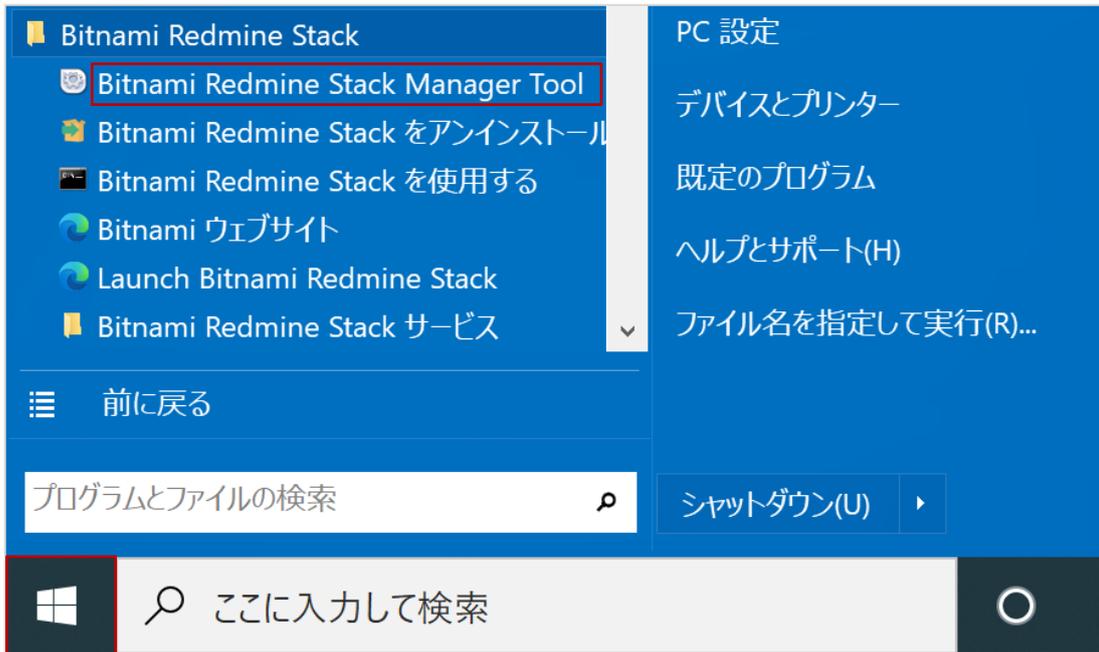
== 20201005073351 AddEmailSubjectToOpenalEmailTemplates: migrating =====
-- add_column(:openal_email_templates, :email_subject_type, :string, {:default=>"template"})
-> 0.0604s
== 20201005073351 AddEmailSubjectToOpenalEmailTemplates: migrated (0.0611s) ==

== 1 CreateOpenalWorkflowAutoassignees: migrating =====
-- create_table(:openal_workflow_autoassignees, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0399s
== 1 CreateOpenalWorkflowAutoassignees: migrated (0.0413s) =====

== 2 CreateOpenalWorkflowAutoassigneeProjects: migrating =====
-- create_table(:openal_workflow_autoassignee_projects, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0410s
== 2 CreateOpenalWorkflowAutoassigneeProjects: migrated (0.0424s) =====
```

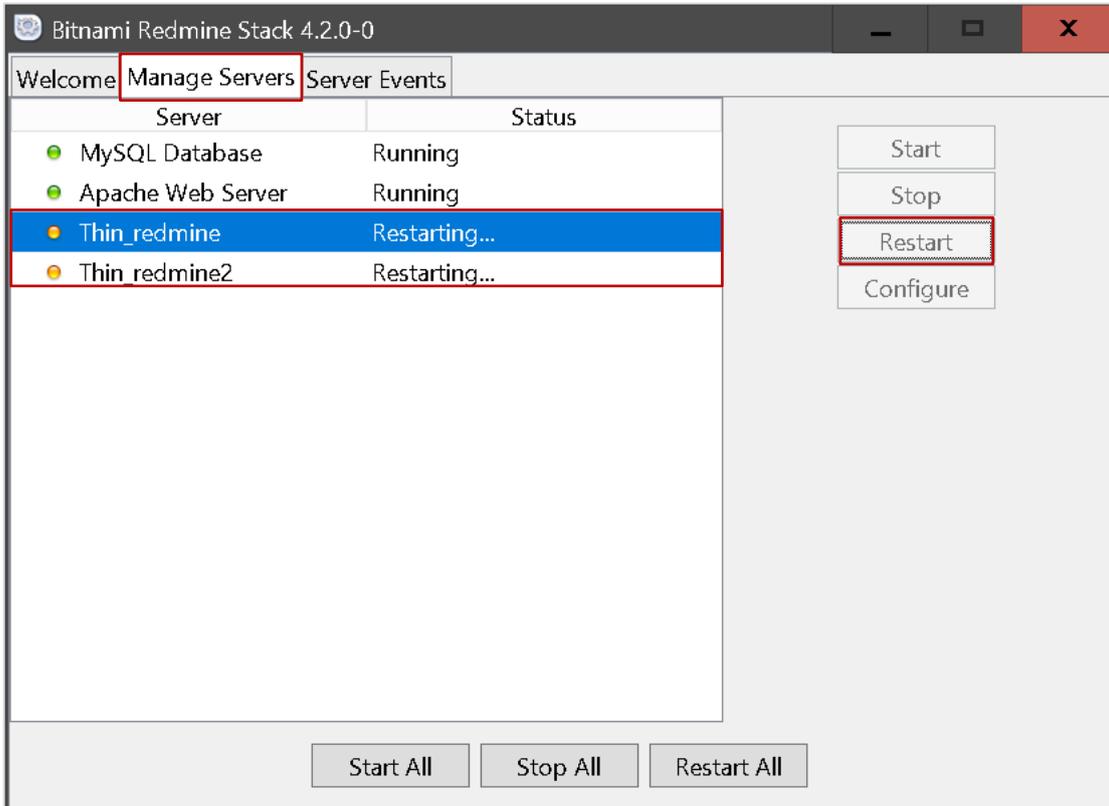
<テーブル生成完了画面>

- 5) Windows の「スタート」ボタンをクリックして、「Bitnami Redmine Stack」の中の「Bitnami Redmine Stack Manager Tool」をクリックして実行します。



<「Bitnami Redmine Stack Manager Tool」クリック画面>

- 6) 「Manage Servers」タブで、「Thin_redmine」と「Thin_redmine2」を選択して「Restart」ボタンをクリックして再起動させます。



<「Thin_redmine」と「Thin_redmine2」の再起動画面>

3.4 アンインストール (Windows 系列)

- 1) インストール環境は顧客の環境によって異なるため、パスなどは顧客環境に読み替えて適用してください。例示では bitnami を使って Redmine をインストールした場合のプラグインのアンインストール方法で説明します。
- 2) 「openalm_workflow_autoassignee」プラグインで使用するテーブルを DB から削除します。テーブル削除後は関連データを復元することはできません。項目「3.3.3)」で説明をした「Bitnami Redmine Stack」をクリックして、「bundle exec rake redmine:plugins:migrate NAME=openalm_workflow_autoassignee VERSION=0 RAILS_ENV=production」を実行します。下図のように「1 CreateOpenalmUserDashboardViewsettings: reverted」などの文字が表示されれば DB からテーブルが正常に削除されたこととなります。

```
Microsoft Windows [Version 10.0.19042.1288]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Bitnami\redmine-4.2.0-0\apps\redmine\htdocs>bundle exec rake redmine:plugins:migrate NAME=openalm_workflow_autoassignee VERSION=0 RAILS_ENV=production
== 2 CreateOpenalmWorkflowAutoassigneeProjects: reverting =====
-- drop_table(:openalm_workflow_autoassignee_projects, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0230s
== 2 CreateOpenalmWorkflowAutoassigneeProjects: reverted (0.0381s) =====
== 1 CreateOpenalmWorkflowAutoassignees: reverting =====
-- drop_table(:openalm_workflow_autoassignees, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0125s
== 1 CreateOpenalmWorkflowAutoassignees: reverted (0.0141s) =====

C:\Bitnami\redmine-4.2.0-0\apps\redmine\htdocs>_
```

<テーブル削除完了画面>

- 3) 「openalm_common」プラグインで使用するテーブルを DB から削除します。テーブル削除後は関連データを復元することはできません。弊社から購入した他のプラグインがある場合は「openalm_common」プラグインで使用するテーブルを DB から削除しないでください。「openalm_common」プラグインで使用するテーブルを DB から削除すると弊社から購入した他のプラグインが動作しなくなる場合があります。もし「openalm_common」プラグインで使用するテーブルを DB から削除しない場合でも Redmine には影響を与えません。項目「3.3.3)」で説明をした「Bitnami Redmine Stack」をクリックして、「bundle exec rake redmine:plugins:migrate NAME=openalm_common VERSION=0 RAILS_ENV=production」を実行します。下図のように「CreateOpenalmCommonHolidays: reverted」などの文字が表示されれば DB からテーブルが正常に削除されたこととなります。

```
Microsoft Windows [Version 10.0.19042.1288]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

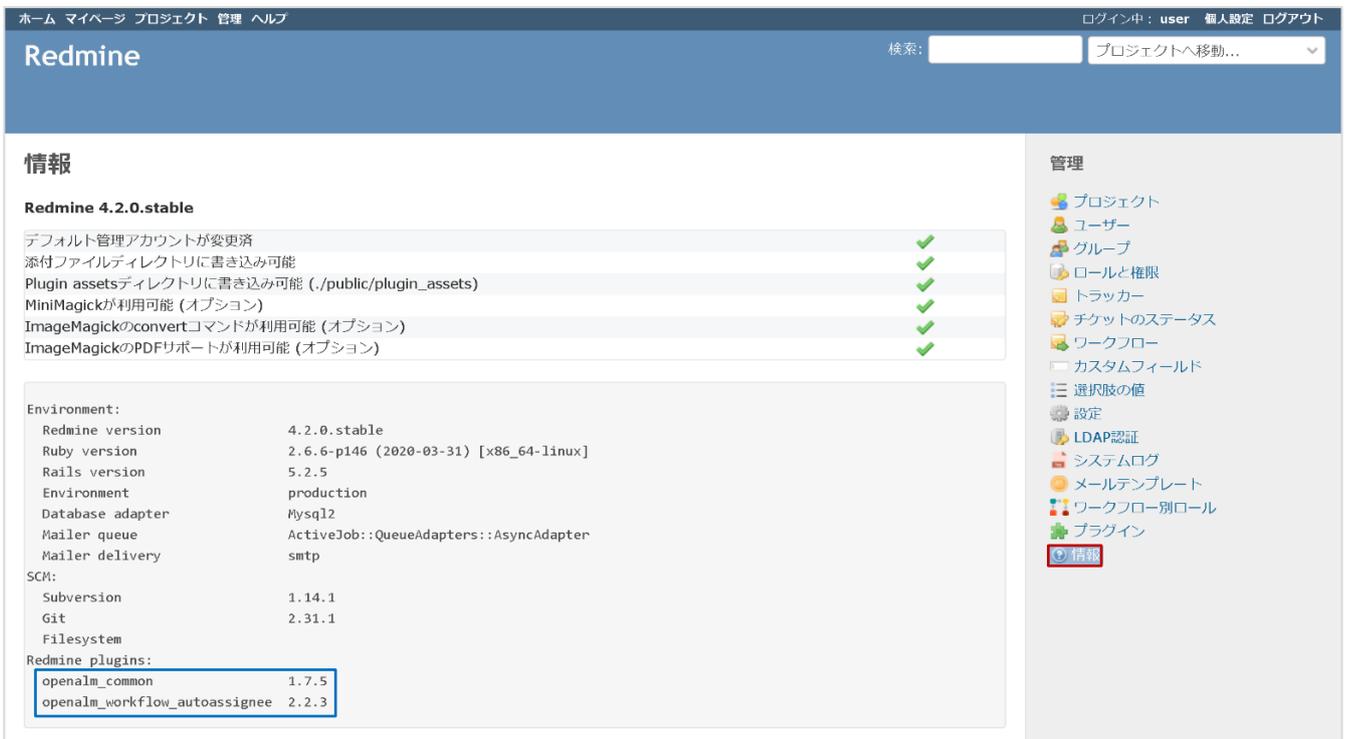
C:\Bitnami\redmine-4.2.0-0\apps\redmine\htdocs>bundle exec rake redmine:plugins:migrate NAME=openalm_common VERSION=0 RAILS_ENV=production
== 20201005073351 AddEmailSubjectToOpenalmEmailTemplates: reverting =====
-- remove_column(:openalm_email_templates, :email_subject_type, :string, {:default=>"template"})
-> 0.0615s
== 20201005073351 AddEmailSubjectToOpenalmEmailTemplates: reverted (0.0731s) ==
== 20200622040913 CreateOpenalmEtcErrorLogs: reverting =====
-- drop_table(:openalm_etc_error_logs, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0085s
== 20200622040913 CreateOpenalmEtcErrorLogs: reverted (0.0089s) =====
== 20200622040653 CreateOpenalmUpdateErrorLogs: reverting =====
-- drop_table(:openalm_update_error_logs, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0094s
== 20200622040653 CreateOpenalmUpdateErrorLogs: reverted (0.0098s) =====
== 20200618054704 CreateOpenalmEmailTemplates: reverting =====
-- drop_table(:openalm_email_templates, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0083s
== 20200618054704 CreateOpenalmEmailTemplates: reverted (0.0087s) =====
== 20200205035655 CreateOpenalmCommonHolidays: reverting =====
-- drop_table(:openalm_common_holidays, {:options=>"ENGINE=InnoDB", :id=>:integer})
-> 0.0094s
== 20200205035655 CreateOpenalmCommonHolidays: reverted (0.0099s) =====
```

<テーブル削除完了画面>

- 4) {REDMINE_ROOT}/plugins 配下のプラグインフォルダーを削除します。「openalm_common」プラグインは上記の3)でテーブルをDBから削除した場合は削除しますが、そうではない場合は{REDMINE_ROOT}/plugins/openalm_common フォルダは削除しません。
- 5) エラーがなく正常に実行されたら、webサーバーを再起動するとアンインストールが完了します。webサーバーを再起動させる方法は項目「3.3.5)」と「3.3.6)」と同じです。

3.5 インストールしたプラグインのバージョン確認

- 1) 正常にプラグインがインストールされると、Redmine のシステム管理者権限者で Redmine にログインすると、「管理」->「情報」をクリックすると、下図のようにインストールされたプラグインのバージョンを確認できます。
- 2) 「Redmine plugins」欄に「openalm_common」と「openalm_workflow_autoassignee」が表示されていることを確認してください。



The screenshot shows the Redmine 'Information' page. The 'Redmine plugins' section is highlighted with a blue box, showing the following installed plugins and their versions:

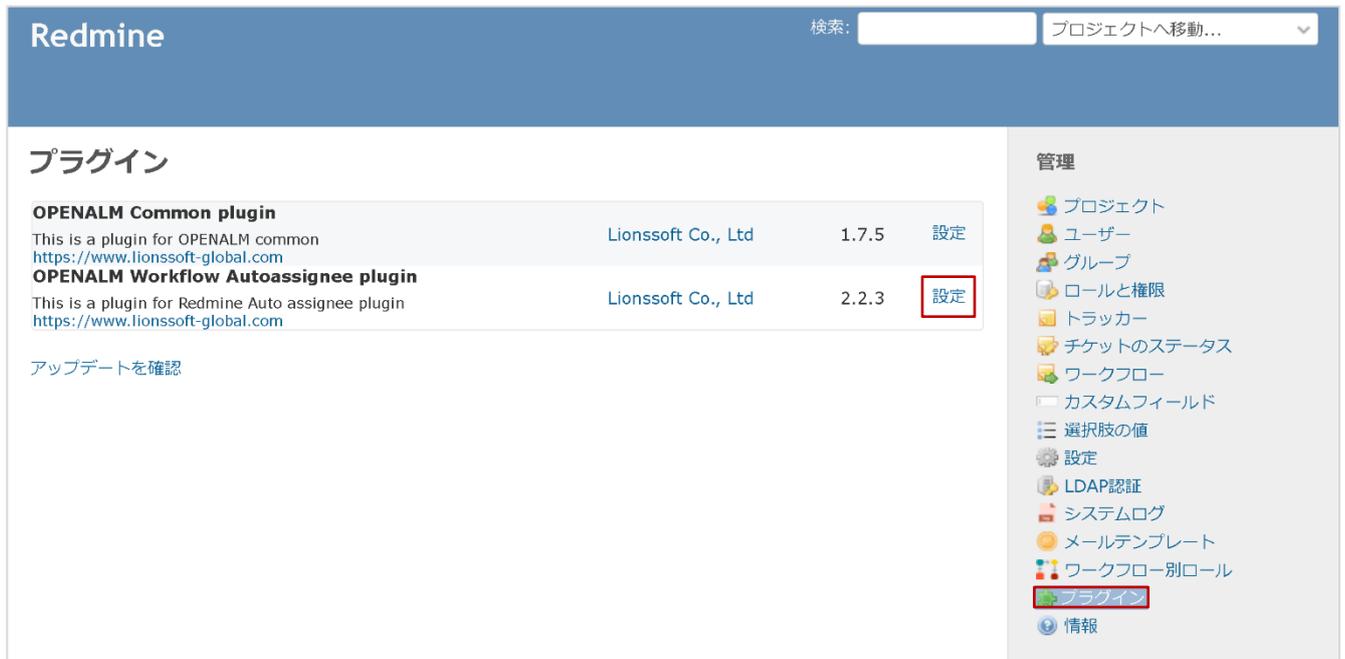
Redmine plugins:	Version
openalm_common	1.7.5
openalm_workflow_autoassignee	2.2.3

<プラグインのバージョン確認画面>

4. 設定

4.1 プラグイン

- 1) システム管理者 (admin) 権限があるユーザーでログインして「管理」->「プラグイン」-> 「OPENALM Common plugin」の「設定」をクリックします。



Redmine

検索: プロジェクトへ移動...

プラグイン

プラグイン名	開発者	バージョン	操作
OPENALM Common plugin This is a plugin for OPENALM common https://www.lionssoft-global.com	Lionssoft Co., Ltd	1.7.5	設定
OPENALM Workflow Autoassignee plugin This is a plugin for Redmine Auto assignee plugin https://www.lionssoft-global.com	Lionssoft Co., Ltd	2.2.3	設定

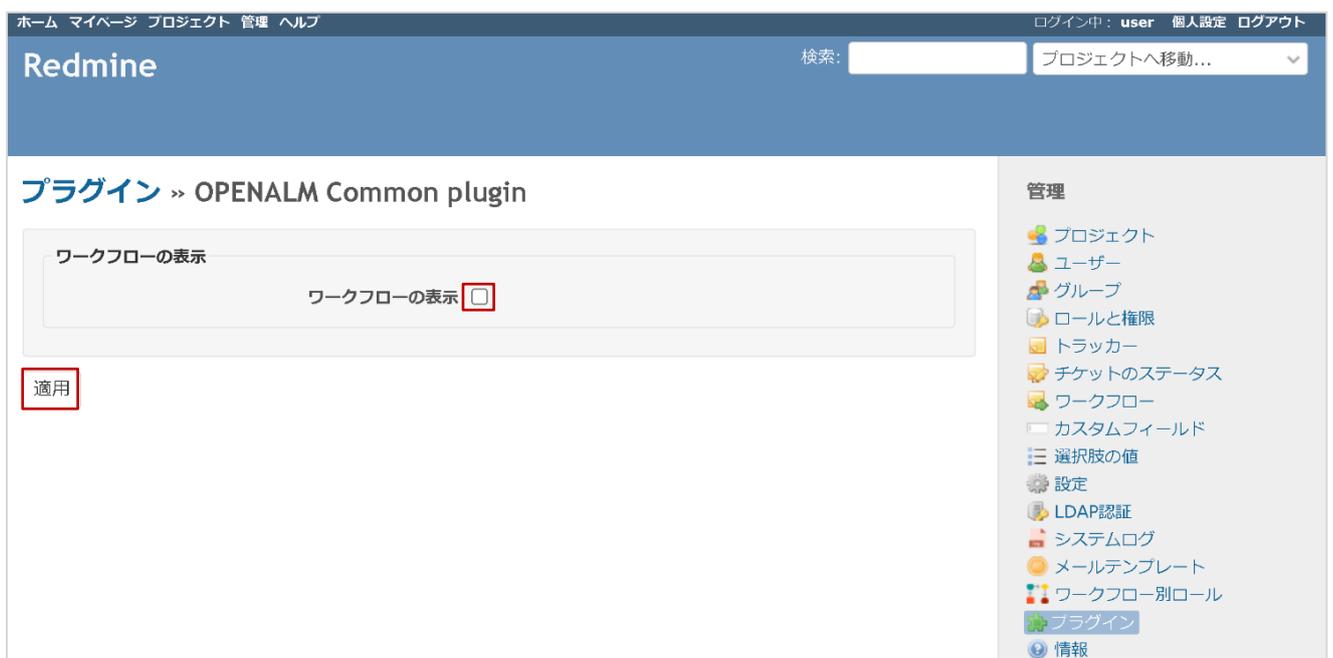
アップデートを確認

管理

- プロジェクト
- ユーザー
- グループ
- ロールと権限
- トラッカー
- チケットのステータス
- ワークフロー
- カスタムフィールド
- 選択肢の値
- 設定
- LDAP認証
- システムログ
- メールテンプレート
- ワークフロー別ロール
- プラグイン**
- 情報

<プラグイン設定画面>

- 2) 「ワークフローの表示」欄でチェックボックスをオンもしくはオフにして適用をクリックしてください。



ホーム マイページ プロジェクト 管理 ヘルプ

Redmine

検索: プロジェクトへ移動...

ログイン中: user 個人設定 ログアウト

プラグイン » OPENALM Common plugin

ワークフローの表示

ワークフローの表示

適用

管理

- プロジェクト
- ユーザー
- グループ
- ロールと権限
- トラッカー
- チケットのステータス
- ワークフロー
- カスタムフィールド
- 選択肢の値
- 設定
- LDAP認証
- システムログ
- メールテンプレート
- ワークフロー別ロール
- プラグイン**
- 情報

<「ワークフローの表示」設定画面>

- 3) 「ワークフローの表示」欄でチェックボックスをオンにすると、下図のようにチケット詳細ページで「ワークフロー」という項目とアイコンが表示されます。



WBS #173 未完了 編集 時間を記録 ★ ウォッチ コピー ...

ビジネス ビジョンを定義する ◀ 前 | 1/8 | 次 ▶

ANKO SOFT さんが約1時間前に追加. 10分前に更新.

ステータス:	新規	開始日:	2021/10/22
優先度:	通常	期日:	2021/10/28 (期日まで 6日)
担当者:	ANKO SOFT	進捗率:	<input type="text" value="0%"/>
確認者:	上間 祐希, 原林 将輝, 古内 朋之	予定工数:	
テスト結果:	はい	IE動作確認済み:	いいえ
		確認方法:	来週までに検討する

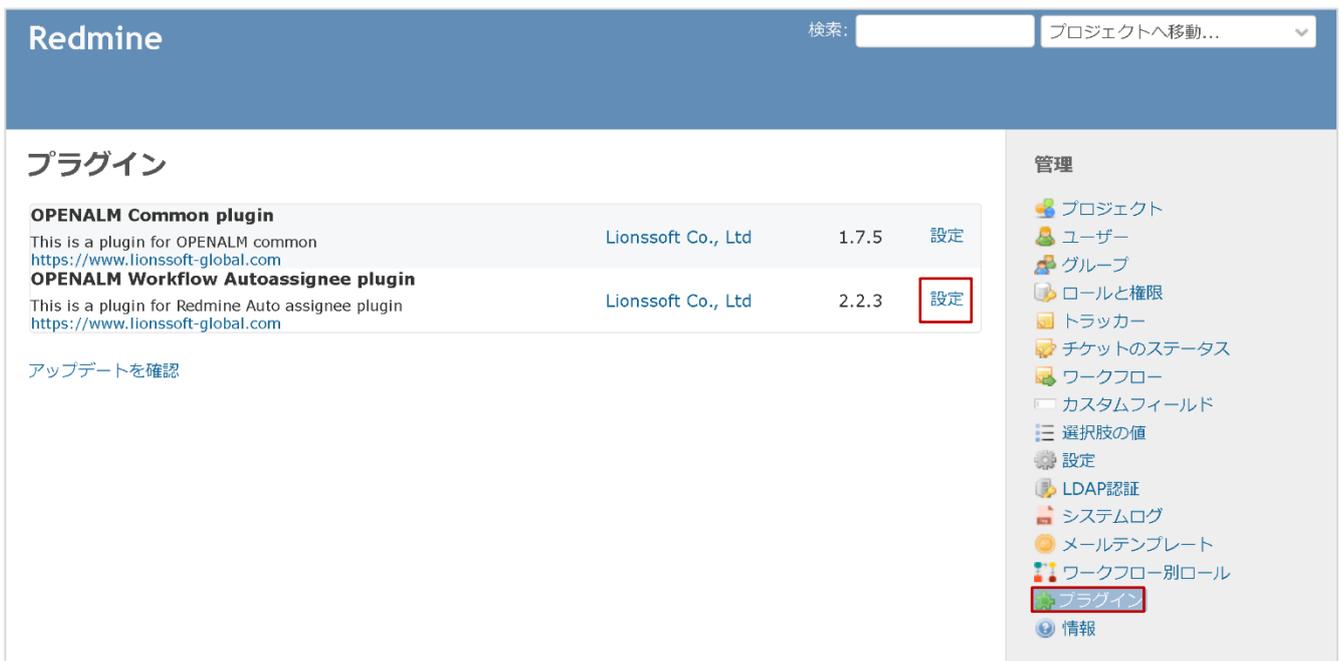
ワークフロー

```

    graph LR
      A((新規)) --> B((進行中))
      B --> C((解決))
      C --> D((フィードバック))
      D --> E((終了))
      E --> F((却下))
  
```

<ワークフロー表示画面>

- 4) システム管理者 (admin) 権限があるユーザーでログインして「管理」->「プラグイン」-> 「OPENALM Workflow Autoassignee plugin」の「設定」をクリックします。



Redmine 検索: プロジェクトへ移動...

プラグイン

OPENALM Common plugin This is a plugin for OPENALM common https://www.lionssoft-global.com	Lionssoft Co., Ltd	1.7.5	設定
OPENALM Workflow Autoassignee plugin This is a plugin for Redmine Auto assignee plugin https://www.lionssoft-global.com	Lionssoft Co., Ltd	2.2.3	設定

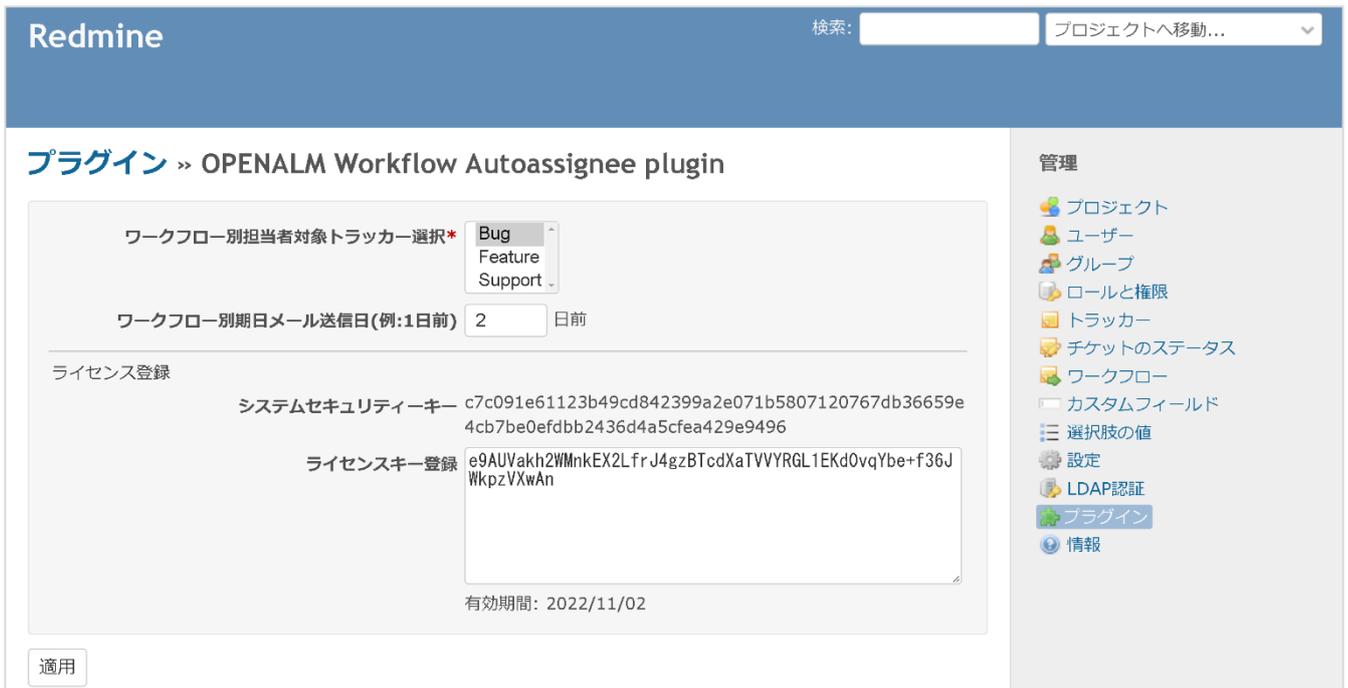
アップデートを確認

管理

- [プロジェクト](#)
- [ユーザー](#)
- [グループ](#)
- [ロールと権限](#)
- [トラッカー](#)
- [チケットのステータス](#)
- [ワークフロー](#)
- カスタムフィールド
- 選択肢の値
- [設定](#)
- [LDAP認証](#)
- [システムログ](#)
- [メールテンプレート](#)
- [ワークフロー別ロール](#)
- [プラグイン](#)**
- [情報](#)

<プラグイン設定画面>

5) ワークフロー別担当者のプラグイン設定画面での設定方法は下記のとおりです。



<ワークフロー別担当者設定画面>

区分	説明	備考
ワークフロー別担当者対象トラッカー選択	ワークフロー別担当者機能を適用するトラッカーを選択します。	
ワークフロー別期日メール送信日(例:1日前)	ワークフロー別に期日に入力されている日付の何日前にメールを送信するかを設定します。	スケジューラーの登録が必要です。

4.2 ライセンスの登録

- 1) システムセキュリティキーをコピーして下記のリンク先のページをブラウザで開いて、評価版もしくは購入したライセンスキーを取得して、取得したライセンスキーを「ライセンスキー登録」に入力して適用をクリックしてライセンスキーを登録します。

<https://www.redmine-marketplace.com>

ライセンス登録

システムセキュリティキー c7c091e61123b49cd842399a2e071b5807120767db36659e4cb7be0efdbb2436d4a5cfea429e9496

ライセンスキー登録

ライセンスキーが登録されていません。

適用

- 2) 正常にライセンスキーが登録されると、有効期限が表示されます。

ライセンス登録

システムセキュリティキー c7c091e61123b49cd842399a2e071b5807120767db36659e4cb7be0efdbb2436d4a5cfea429e9496

ライセンスキー登録 e9AUVakh2WMnkEX2L fr J4gzBTcdXaTVVYRGL1EKd0vqYbe+f36JWkpzVXwAn

有効期間: 2022/11/02

- 3) 有効期限が満了になると下図のように表示されます。

ライセンス登録

システムセキュリティキー c7c091e61123b49cd842399a2e071b5807120767db36659e4cb7be0efdbb2436d4a5cfea429e9496

ライセンスキー登録 e9AUVakh2WMnkEX2L fr J4gzBTcdXaTVVYRGL1EKd0vqYbe+f36JWkpzVXwAnDY3p1U4r4G0Jkzpj20oA2xEE7DMRr fKyYhJHKnI7N2htR/etBb

使用期限が完了しました。再購入をしてください。

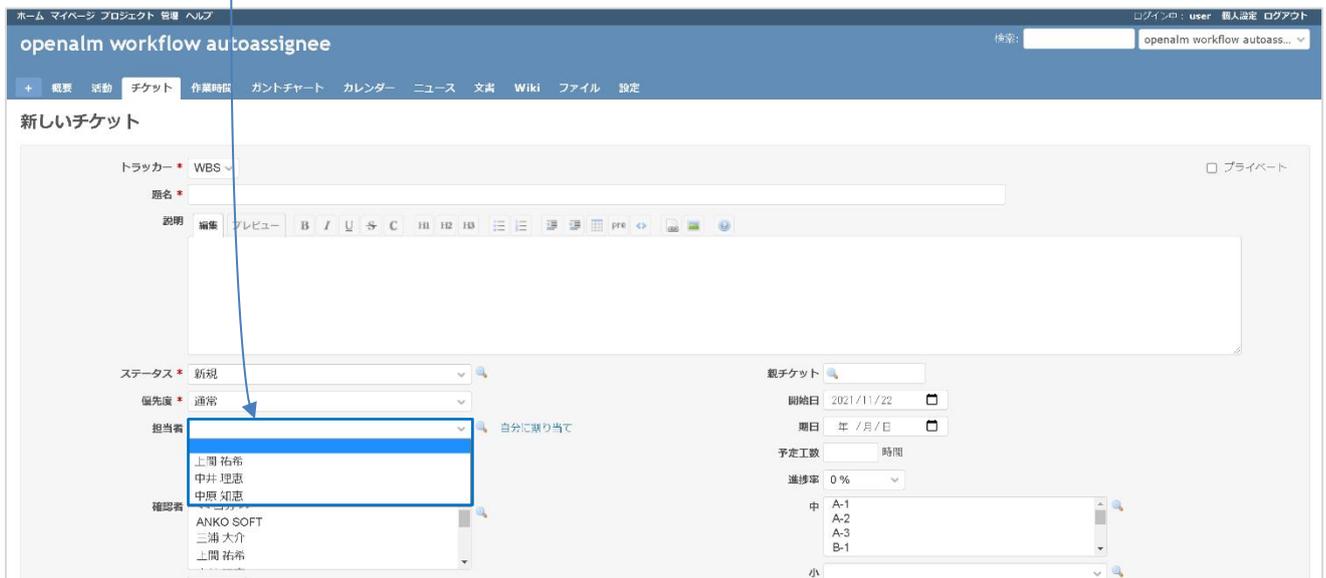
4.3 ワークフロー別ロール

- Redmine のシステム管理者権限でログインをして「管理」->「ワークフロー別ロール」をクリックすると、下図のように各トラッカーとステータス別にロールが表示されます。トラッカーとステータス別に指定した「ワークフロー別ロール選択」で指定したロールに所属している担当者が、チケットの担当者欄に表示され、また、各プロジェクトの「設定」->「ワークフロー別担当者」欄にも表示されます。その際、自分が所属しているロールに所属しているユーザーだけが表示されます。



<ワークフロー別ロール設定画面>

- 例えば、下図で「WBS」の新規のステータスの場合は、担当者欄で表示されるユーザーは、上の図で「開発者」が指定されているため、「開発者」に所属しているユーザーだけが担当者欄に表示されます。



<ワークフロー別ロールが適用された画面>

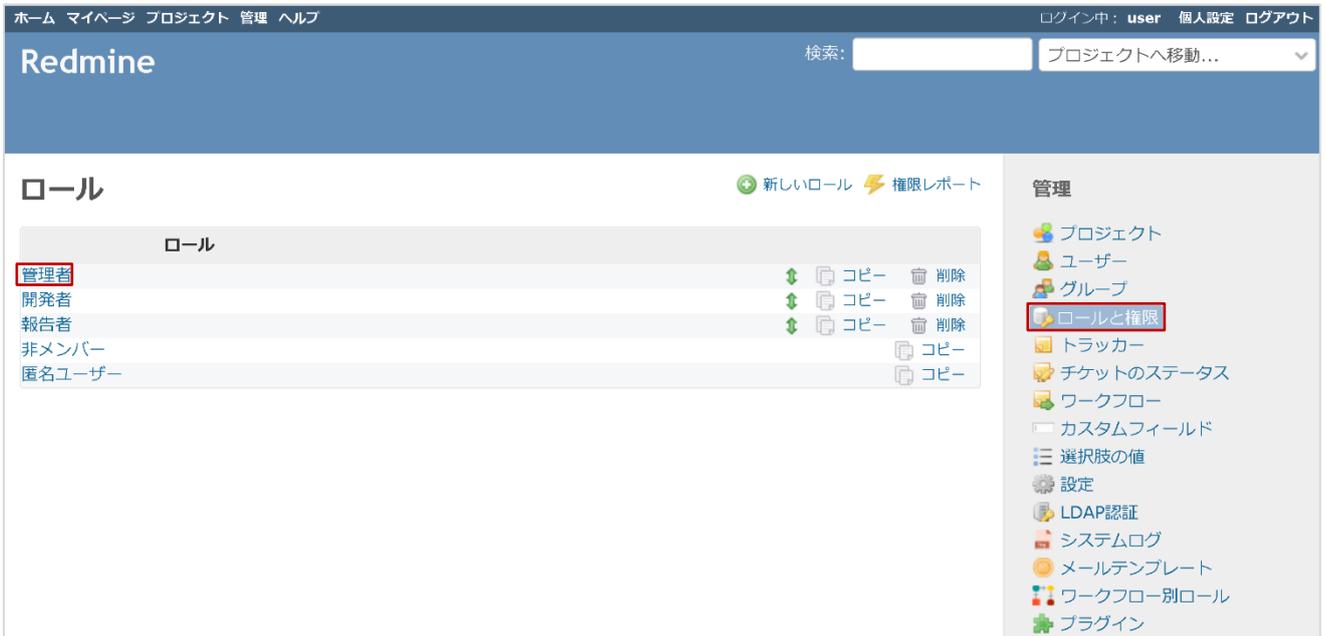
3) 「ワークフロー別ロール選択」を選択して「保存」ボタンをクリックします。



<トラッカーとワークフロー別ロール設定画面>

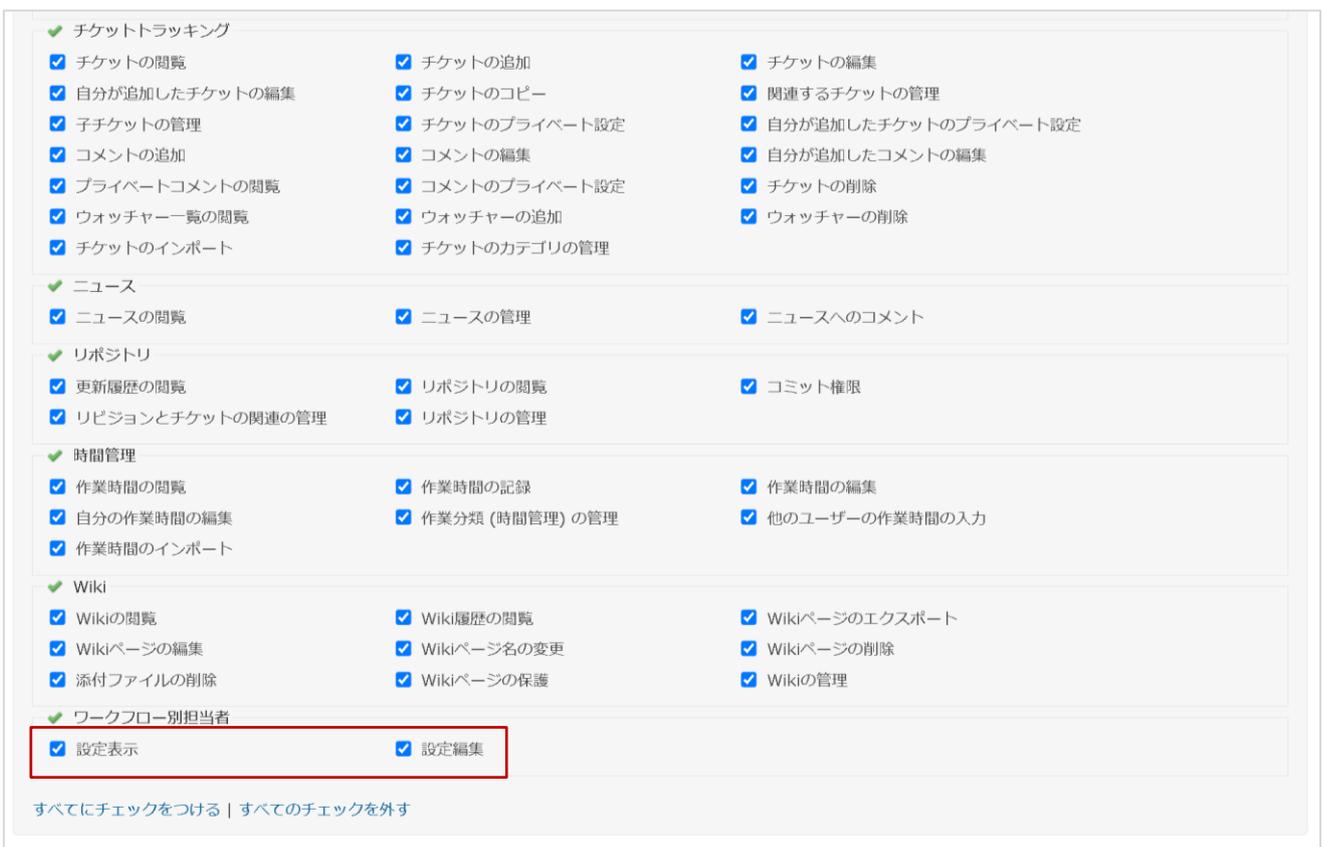
4.4 権限

- 1) 「ロールと権限」で権限を設定したいロールをクリックします。



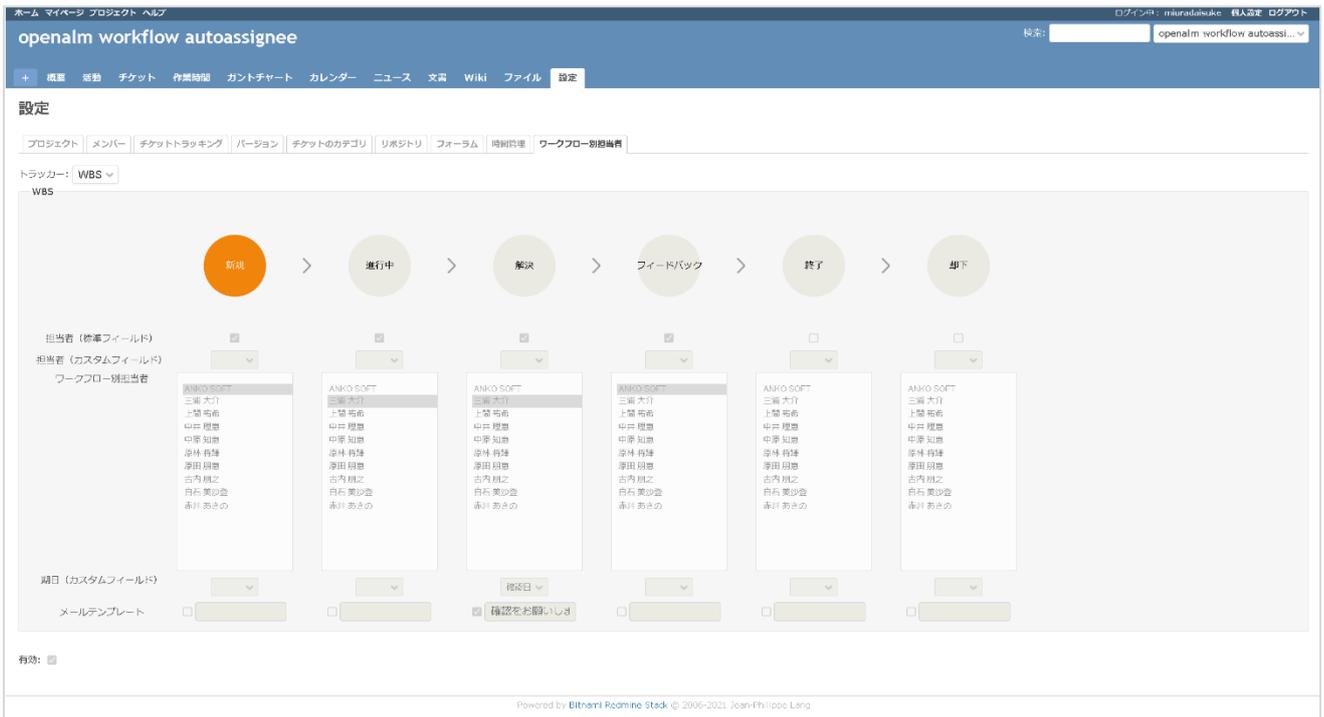
<「ロールと権限」の設定画面>

- 2) 「ワークフロー別担当者」に「設定表示」と「設定編集」があります。「設定表示」は各プロジェクトの「設定」で「ワークフロー別担当者」ページで内容を表示する権限で、「設定編集」はその内容を編集できる権限です。

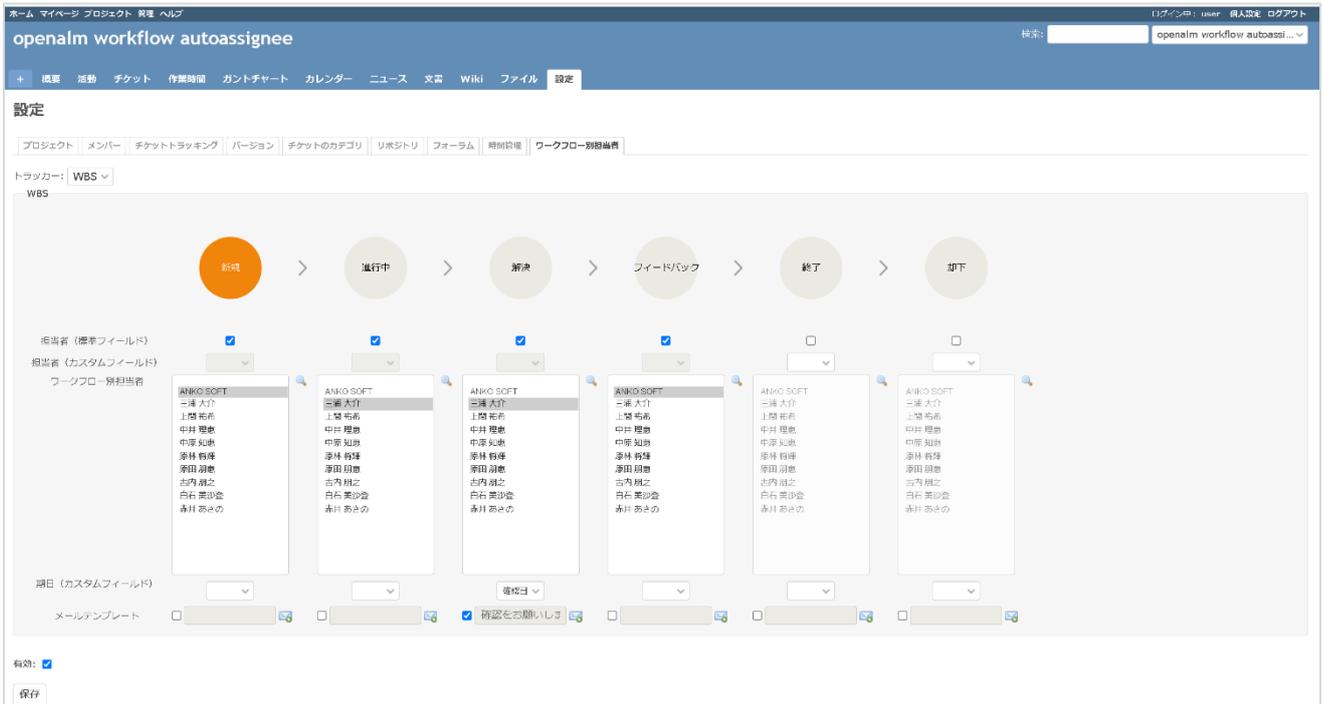


<「ロールと権限」の設定画面>

3) 「設定表示」と「設定編集」権限で表示する画面は下図のとおりです。



〈ワークフロー別担当者の「表示権限」者の画面〉



〈ステータス別担当者の「編集権限」者の画面〉

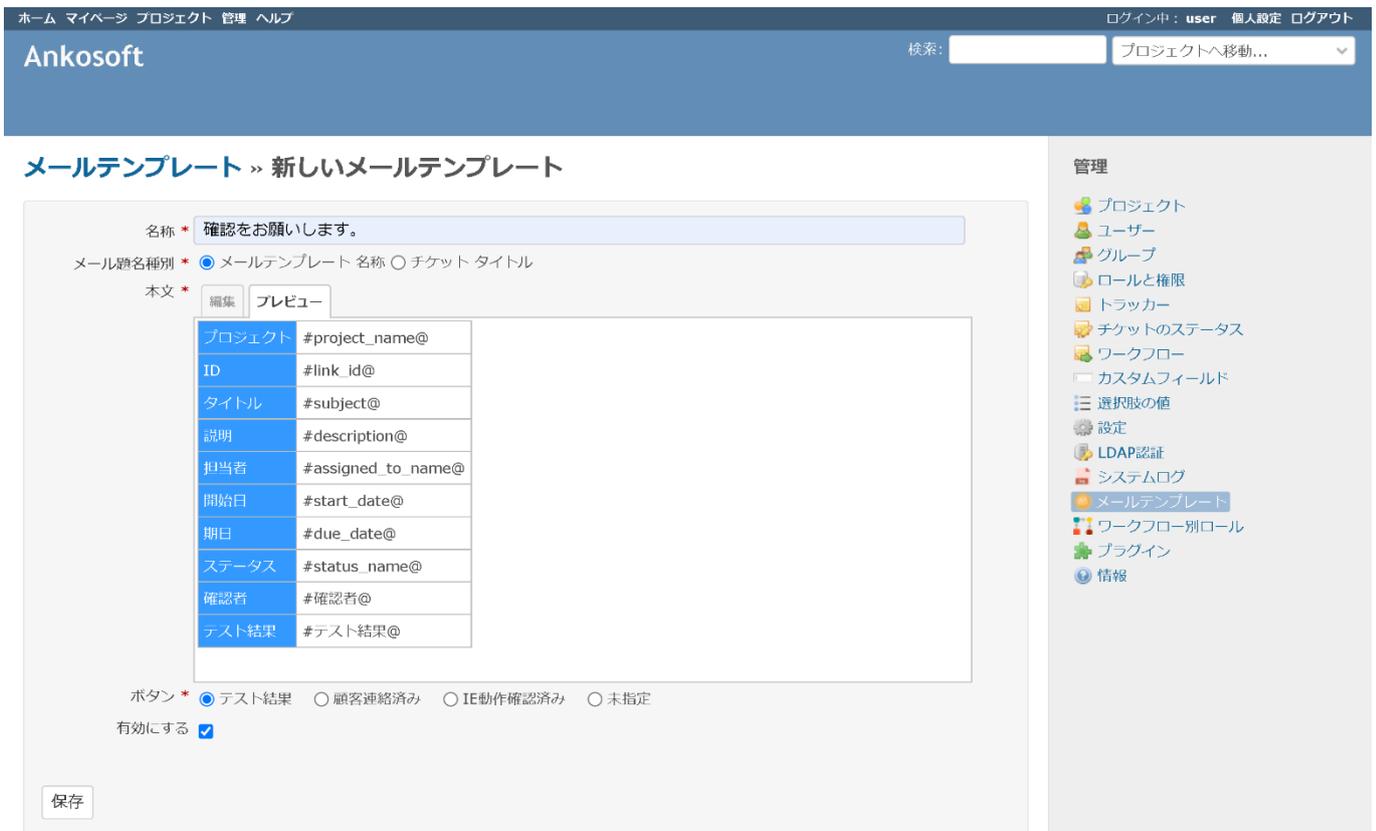
4.5 メールテンプレート

- Redmine のシステム管理者でログインして「管理」->「メールテンプレート」をクリックして「追加」ボタンをクリックすると、メールテンプレート追加画面が表示されます。



＜メールテンプレート一覧画面＞

- 下記の説明と redmine で使用している「テキスト書式」の種別に従って、メールテンプレートを登録してください。



＜新しいメールテンプレート登録画面＞

項目	説明	備考																																		
名称	メールテンプレートの名称です。																																			
メール題名種別	メールを送信する時にメールの代目で使用する項目を選択します。 メールテンプレート 名称: メールテンプレートの名称を送信するメールのタイトルとして使用します。 チケットタイトル: チケットのタイトルを送信するメールのタイトルとして使用します。																																			
本文	<p>メールの本文として使用する内容を作成します。 メールの本文を、予約語を使って作成することができます。 チケットの標準フィールドは下記の予約語になります。</p> <table border="1"> <tr><td>プロジェクト</td><td>#project_name@</td></tr> <tr><td>ID</td><td>#id@</td></tr> <tr><td>URL リンク付き ID</td><td>#link_id@</td></tr> <tr><td>題名</td><td>#subject@</td></tr> <tr><td>本文</td><td>#description@</td></tr> <tr><td>担当者</td><td>#assigned_to_name@</td></tr> <tr><td>開始日</td><td>#start_date@</td></tr> <tr><td>期日</td><td>#due_date@</td></tr> <tr><td>ステータス</td><td>#status_name@</td></tr> <tr><td>トラッカー</td><td>#tracker_name@</td></tr> <tr><td>優先度</td><td>#priority_name@</td></tr> <tr><td>進捗率</td><td>#done_ratio@</td></tr> <tr><td>予定工数</td><td>#estimated_hours@</td></tr> <tr><td>作成者</td><td>#author_name@</td></tr> <tr><td>対象バージョン</td><td>#fixed_version_name@</td></tr> </table> <p>カスタムフィールドの場合はカスタムフィールドの名前で定義します。 例示: カスタムフィールドで「確認者」や「テストの有無」が登録されている場合は「#確認者@」や「#テストの有無@」で定義します。</p> <table border="1"> <tr><td>確認者</td><td>#確認者@</td></tr> <tr><td>テストの有無</td><td>#テストの有無@</td></tr> </table>	プロジェクト	#project_name@	ID	#id@	URL リンク付き ID	#link_id@	題名	#subject@	本文	#description@	担当者	#assigned_to_name@	開始日	#start_date@	期日	#due_date@	ステータス	#status_name@	トラッカー	#tracker_name@	優先度	#priority_name@	進捗率	#done_ratio@	予定工数	#estimated_hours@	作成者	#author_name@	対象バージョン	#fixed_version_name@	確認者	#確認者@	テストの有無	#テストの有無@	
プロジェクト	#project_name@																																			
ID	#id@																																			
URL リンク付き ID	#link_id@																																			
題名	#subject@																																			
本文	#description@																																			
担当者	#assigned_to_name@																																			
開始日	#start_date@																																			
期日	#due_date@																																			
ステータス	#status_name@																																			
トラッカー	#tracker_name@																																			
優先度	#priority_name@																																			
進捗率	#done_ratio@																																			
予定工数	#estimated_hours@																																			
作成者	#author_name@																																			
対象バージョン	#fixed_version_name@																																			
確認者	#確認者@																																			
テストの有無	#テストの有無@																																			
ボタン	<p>真偽値形式のカスタムフィールドがある場合に表示されます。メール送信時にここで選択されたカスタムフィールドがメール本文の下端に確認ボタン形態で追加されます。受信したメールで該当フィールドの回答ボタンをクリックすると、該当チケットにその結果が反映されます。メール送信時にこのボタン機能を使う必要がない場合は「未指定」を選択してください。</p> <p>ただし、該当機能はメーラーでは動作せず、ブラウザでメールを受信できる時だけ動作します。しかし、メールサーバーのセキュリティポリシーなどにより動作しない場合があります。</p>																																			
有効にする	該当メールテンプレートを使用する場合は「有効にする」のチェックボックスをオンにします。																																			

- 「テキスト書式」に「Textile」を使用している場合の本文の作成サンプル

名称 * 確認をお願いします。

メール題名種別 * メールテンプレート 名称 チケット タイトル

本文 *

プロジェクト	#project_name@
ID	#link_id@
タイトル	#subject@
説明	#description@
担当者	#assigned_to_name@
開始日	#start_date@
期日	#due_date@
ステータス	#status_name@
確認者	#確認者@
テスト結果	#テスト結果@

ボタン * テスト結果 顧客連絡済み IE動作確認済み 未指定

有効にする

<Textile 形式のメールテンプレート追加画面>

```
| {background:#3399ff}. % {color: white} プロジェクト%|#project_name@|
| {background:#3399ff}. % {color: white} ID%|#link_id@|
| {background:#3399ff}. % {color: white} タイトル%|#subject@|
| {background:#3399ff}. % {color: white} 説明%|#description@|
| {background:#3399ff}. % {color: white} 担当者%|#assigned_to_name@|
| {background:#3399ff}. % {color: white} 開始日%|#start_date@|
| {background:#3399ff}. % {color: white} 期日%|#due_date@|
| {background:#3399ff}. % {color: white} ステータス%|#status_name@|
| {background:#3399ff}. % {color: white} 確認者%|#確認者@|
| {background:#3399ff}. % {color: white} テスト結果%|#テスト結果@|
```

<Textile 形式の本文のサンプル>

- 「テキスト書式」に「Markdown」を使用している場合の本文の作成サンプル

名称 * 確認をお願いします。

メール題名種別 * メールテンプレート 名称 チケット タイトル

本文 *

項目	値
プロジェクト	#project_name@
ID	#link_id@
タイトル	#subject@
説明	#description@
担当者	#assigned_to_name@
開始日	#start_date@
期日	#due_date@
ステータス	#status_name@
確認者	#確認者@
テスト結果	#テスト結果@

ボタン * テスト結果 顧客連絡済み IE動作確認済み 未指定

有効にする

<Markdown 形式のメールテンプレート追加画面>

```
|項目|値|
|--|--|
|プロジェクト|#project_name@|
|ID|#link_id@|
|タイトル|#subject@|
|説明|#description@|
|担当者|#assigned_to_name@|
|開始日|#start_date@|
|期日|#due_date@|
|ステータス|#status_name@|
|確認者|#確認者@|
|テスト結果|#テスト結果@|
```

<Markdown 形式の本文のサンプル>

- 「テキスト書式」に「CKEditor (Html 形式)」を使用している場合の本文の作成サンプル (CKEditor は redmine のデフォルトのテキスト書式ではありません。該当プラグインをインストールする必要があります。弊社では該当プラグインのインストール方法、使い方に関してはサポートしません。)

メールテンプレート / 新しいメールテンプレート

名称 * 確認をお願いいたします。

メール題名種別 * メールテンプレート 名称 チケット タイトル

本文 *

プロジェクト	#project_name@
チケット番号	#link_id@
チケットタイトル	#subject@
本文	#description@
担当者	#assigned_to_name@
開始日	#start_date@
期日	#due_date@
ステータス	#status_name@
確認者	#確認者@
テスト結果	#テスト結果@

ボタン * テスト結果 未指定

有効にする

<CKEditor (Html) 形式のメールテンプレート追加画面>

```
<table border="1" cellpadding="1" cellspacing="1" style="width: 480px;">
  <tbody>
    <tr>
      <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153, 255);"><span style="color:#ffffff;">プロジェクト</span></td>
      <td style="width: 268px;">#project_name@</td>
    </tr>
    <tr>
      <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153, 255);"><span style="color:#ffffff;">チケット番号</span></td>
      <td style="width: 268px;">#link_id@</td>
    </tr>
    <tr>
      <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153, 255);"><span style="color:#ffffff;">チケットタイトル</span></td>
      <td style="width: 268px;">#subject@</td>
    </tr>
    <tr>
      <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153, 255);"><span style="color:#ffffff;">本文</span></td>
      <td style="width: 268px;">#description@</td>
    </tr>
    <tr>
      <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153, 255);"><span style="color:#ffffff;">担当者</span></td>
      <td style="width: 268px;">#assigned_to_name@</td>
    </tr>
```

```

        <tr>
            <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153,
255);"><span style="color:#ffffff;">開始日</span></td>
            <td style="width: 268px;">#start_date@</td>
        </tr>
        <tr>
            <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153,
255);"><span style="color:#ffffff;">期日</span></td>
            <td style="width: 268px;">#due_date@</td>
        </tr>
        <tr>
            <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153,
255);"><span style="color:#ffffff;">ステータス</span></td>
            <td style="width: 268px;">#status_name@</td>
        </tr>
        <tr>
            <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153,
255);"><span style="color:#ffffff;">確認者</span></td>
            <td style="width: 268px;">#確認者@</td>
        </tr>
        <tr>
            <td style="width: 195px; background-color: rgb(51, 153,
255);"><span style="color:#ffffff;">テスト結果</span></td>
            <td style="width: 268px;">#テスト結果@</td>
        </tr>
    </tbody>
</table>
<p>&nbsp;</p>
    
```

<CKEditor (Html) 形式の本文のサンプル>

4.6 プロジェクト設定でワークフロー別担当者

- 1) 各プロジェクトの「設定」->「プロジェクト」->「モジュール」で「ワークフロー別担当者」を選択して、保存をクリックします。

ホーム マイページ プロジェクト 管理 ヘルプ

openalm workflow autoassignee

+ 概要 活動 チケット 作業時間 ガントチャート カレンダー ニュース 文書 Wiki ファイル **設定**

設定

プロジェクト
メンバー
チケットトラッキング
バージョン
チケットのカテゴリ
リポジトリ
フォーラム
時間管理
ワークフロー別担当者

名称 *

説明 編集 プレビュー B I U S C H1 H2 H3 ☰ ☰ ☰ ☰ pre ↔ 📎 📄 🔗

識別子 *

ホームページ

公開 公開プロジェクトとその中の情報にはネットワーク上の全ユーザーがアクセスできます。

親プロジェクト名

メンバーを継承

✔ モジュール

<input checked="" type="checkbox"/> チケットトラッキング	<input checked="" type="checkbox"/> 時間管理	<input checked="" type="checkbox"/> ニュース	<input checked="" type="checkbox"/> 文書
<input checked="" type="checkbox"/> ファイル	<input checked="" type="checkbox"/> Wiki	<input checked="" type="checkbox"/> リポジトリ	<input checked="" type="checkbox"/> フォーラム
<input checked="" type="checkbox"/> カレンダー	<input checked="" type="checkbox"/> ガントチャート	<input checked="" type="checkbox"/> ワークフロー別担当者	

保存

<プロジェクト設定画面>



-28-

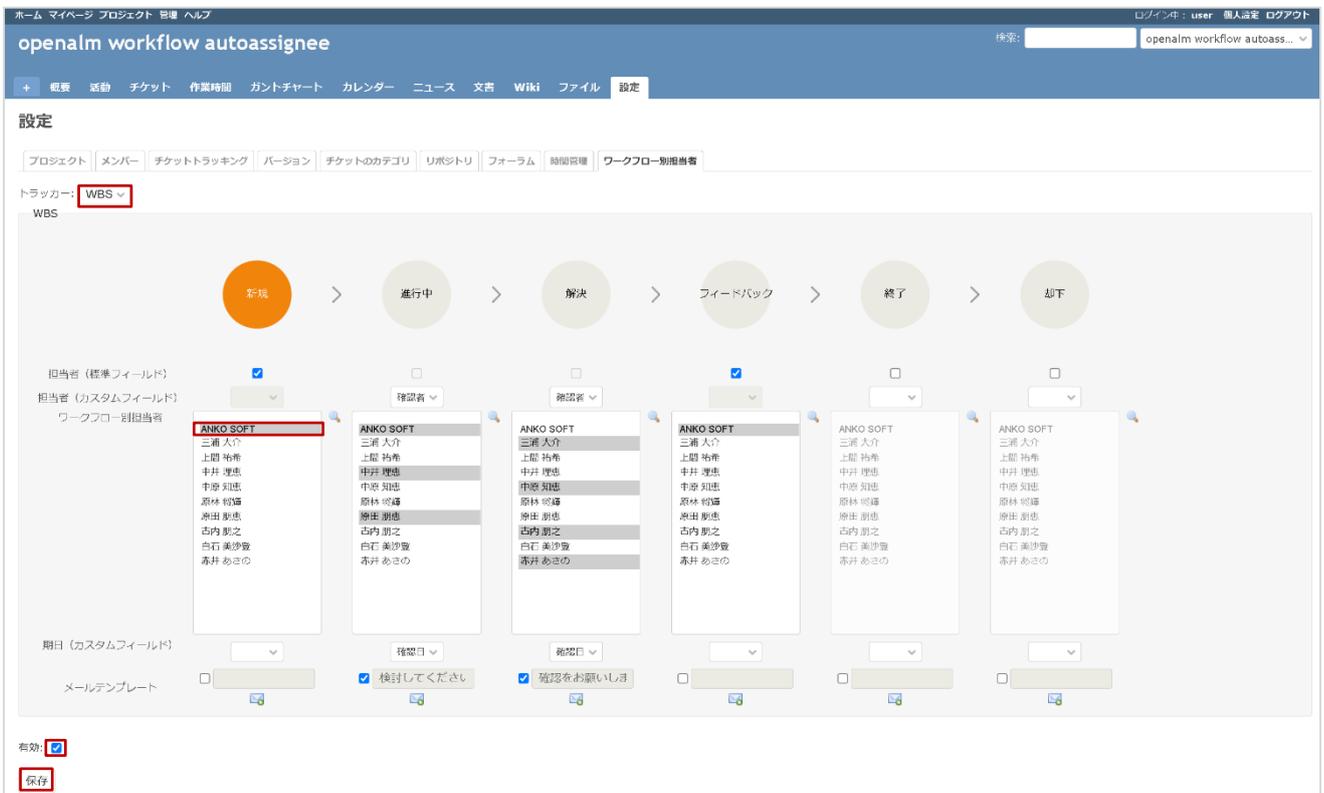
www.ankosoft.co.jp

- 設定に「ワークフロー別担当者」タブが表示されたら、「ワークフロー別担当者」タブをクリックします。選択して、保存をクリックします。



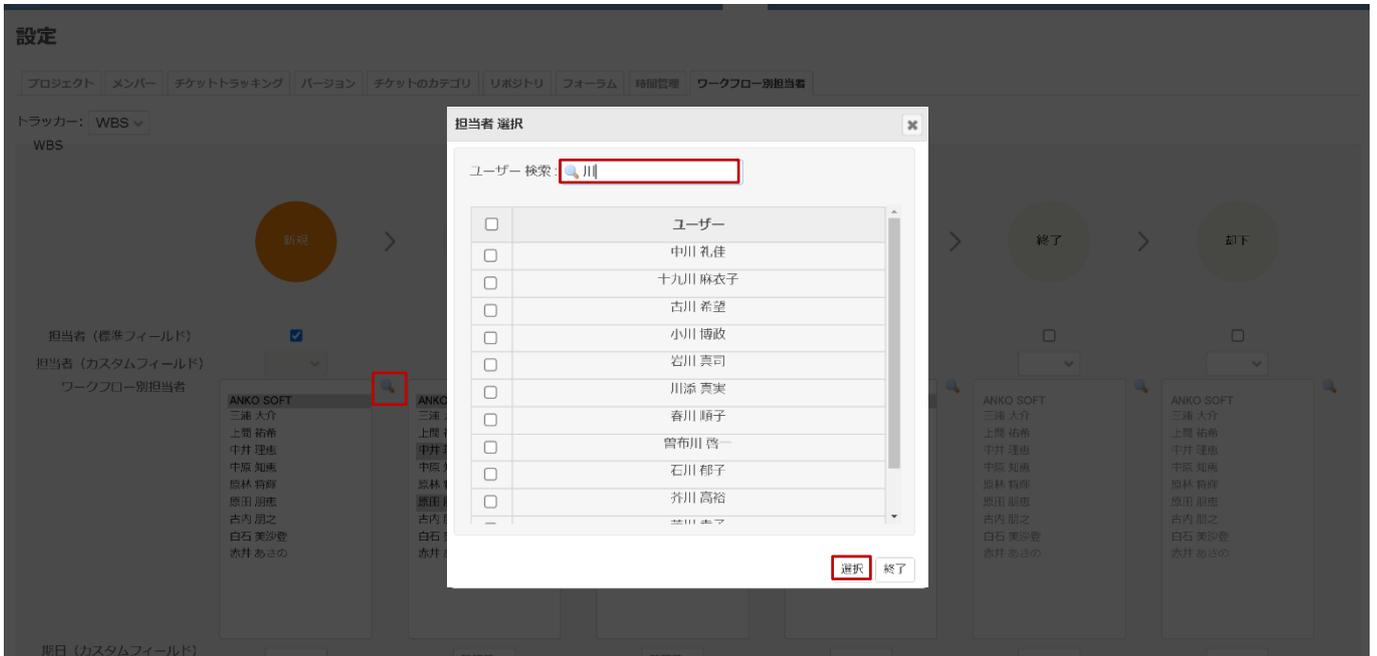
<「ワークフロー別担当者」の設定画面>

- 担当者を指定するためには、トラッカーを選択して、「担当者（標準フィールド）」と「担当者（カスタムフィールド）」のどちらか一つを選択できます。基本の Redmine で提供する担当者欄のフィールドを使用する場合は「担当者（標準フィールド）」を選択して、「ワークフロー別担当者」でユーザー（もしくはグループ）を選択して、有効を選択して、保存ボタンをクリックします。



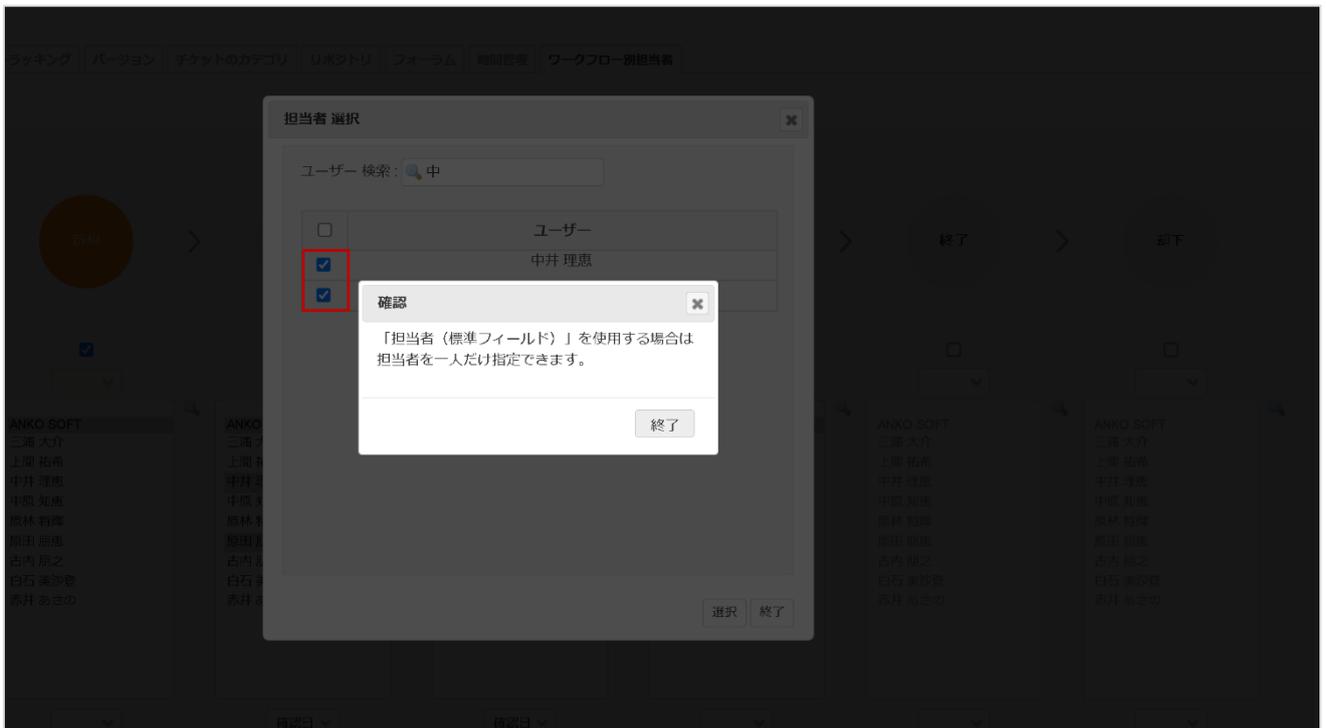
<「担当者（標準フィールド）」でのワークフロー別担当者の設定画面>

- 4) プロジェクトに所属しているユーザーが多くて設定したいユーザーを選択することが難しい場合は、ワークフロー別担当者欄の右にある検索アイコンをクリックすると、担当者選択ポップアップが表示されます。既に選択したユーザーがある場合は選択されています。ユーザー検索欄に検索したいユーザー名を入力すると部分一致でユーザーを検索することができます。指定したいユーザーを選択して「選択」ボタンをクリックします。

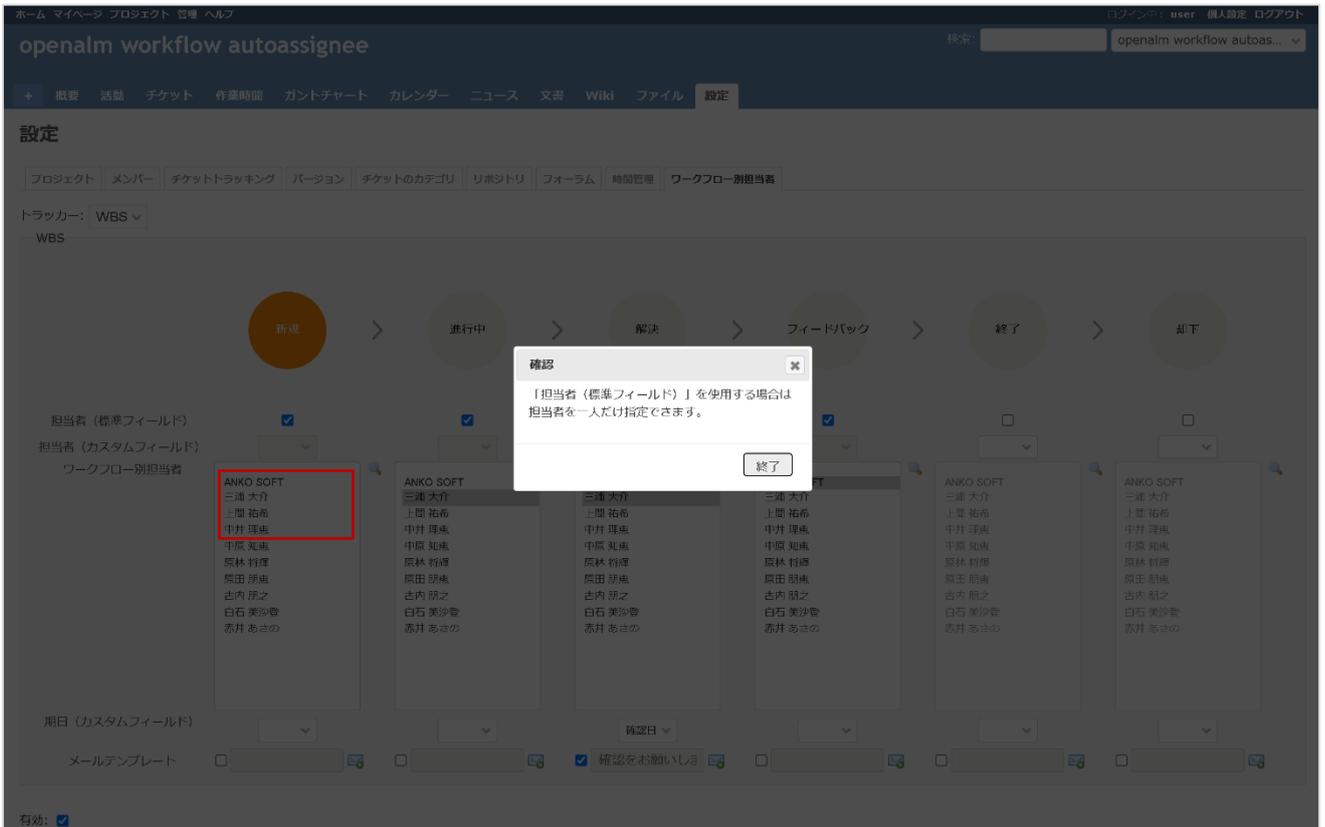


<担当者選択ポップアップ画面>

- 5) 「担当者（標準フィールド）」では担当者を一人だけ指定できます。複数人を指定しようとするすると下図のようにアラートメッセージが表示されます。ポップアップウィンドウを使用しないで直接複数の担当者を指定する場合も同じアラートメッセージが表示されます。



<担当者選択画面で複数の担当者的を選択すると表示されるアラート画面>



＜ワークフロー別担当者選択画面で複数の担当者を選択すると表示されるアラート画面＞

- 6) ユーザー形式のカスタムフィールドで作成したフィールドを使用する場合は、「担当者（カスタムフィールド）」を選択します。
- 7) 選択された「担当者（カスタムフィールド）」が「複数選択可」に設定されている場合は担当者を複数指定でき、そうでない場合は複数のユーザーを選択できないというアラートメッセージが表示されます。
- 8) 「担当者（カスタムフィールド）」ではユーザーを指定することはできません。



＜「複数選択可」に設定した画面＞

設定

プロジェクト メンバー チケットトラッキング バージョン チケットのカテゴリ リポソトリ フォーラム 時間管理 **ワークフロー別担当者**

トラッカー: WBS

WBS

新規 > 進行中 > 解決 > フィードバック > 終了 > 却下

担当者 (標準フィールド) 確認者 確認者 フィードバック 終了 却下

担当者 (カスタムフィールド) 確認者 確認者 フィードバック 終了 却下

ワークフロー別担当者

ANKO SOFT 三浦 大介 上野 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉輝 原田 萌恵 古内 萌之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上野 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉輝 原田 萌恵 古内 萌之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上野 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉輝 原田 萌恵 古内 萌之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上野 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉輝 原田 萌恵 古内 萌之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上野 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉輝 原田 萌恵 古内 萌之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上野 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉輝 原田 萌恵 古内 萌之 白石 美沙登 赤井 あさの
--	--	--	--	--	--

期日 (カスタムフィールド) 確認日 確認日 フィードバック 終了 却下

メールテンプレート 検討してください 確認をお願いし

有効:

保存

<「ワークフロー別担当者」欄で複数ユーザーを指定した画面>

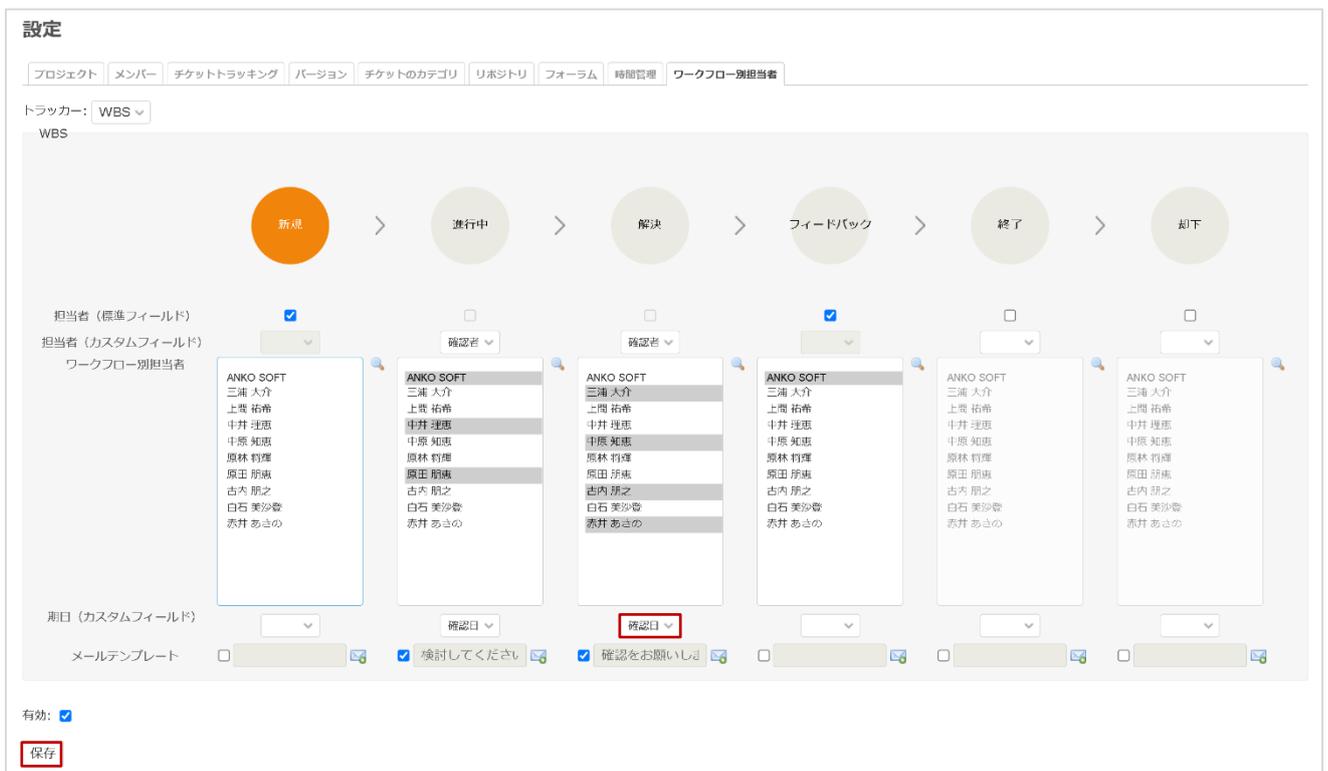
4.7 ワークフロー別期日設定

- 1) ワークフロー別に期日を指定するために下記のように設定します。
- 2) 事前にカスタムフィールドで、形式を「日付」にして、各ステータス別に使用するフィールドを準備します。
- 3) Redmine のシステム管理者権限者で Redmine にログインして、「管理」->「カスタムフィールド」->「新しいカスタムフィールド」をクリックして、下図のように、日付形式のカスタムフィールドを登録します。



＜日付形式のカスタムフィールドの登録画面＞

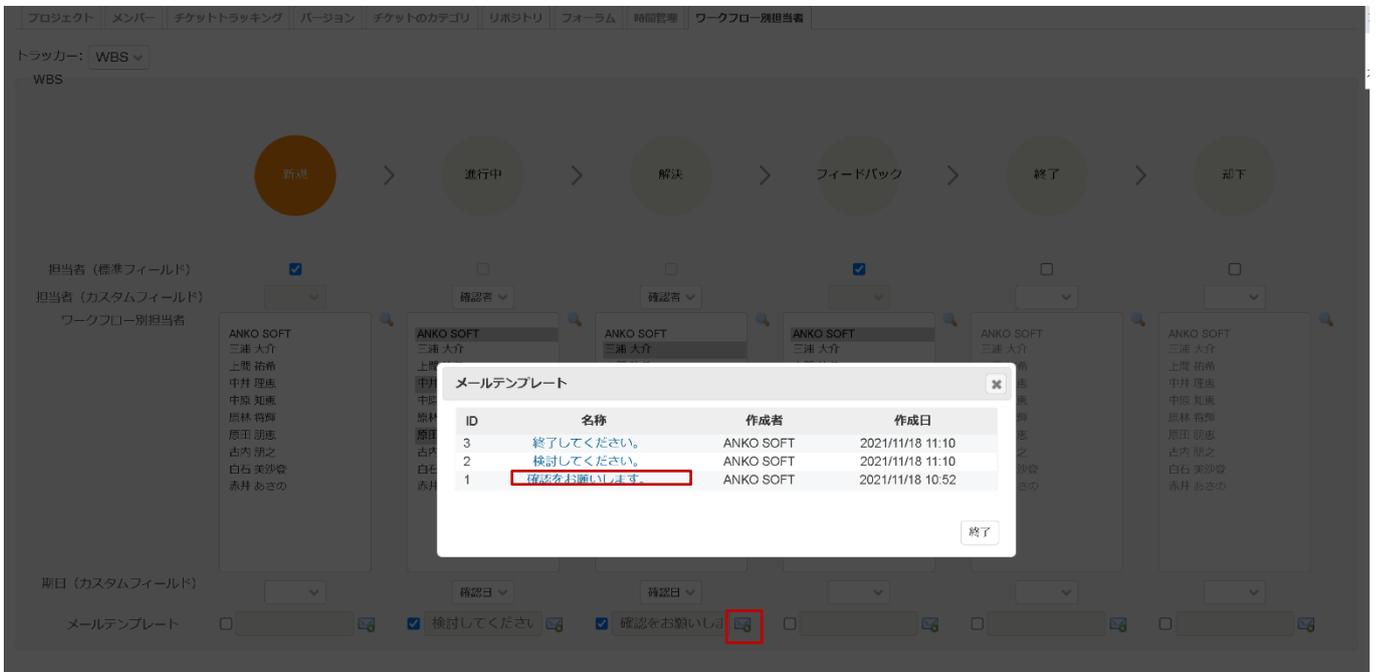
- 4) 「期日（カスタムフィールド）」で、上で追加したフィールドを選択して「保存」をクリックします。



＜期日（カスタムフィールド）を設定した画面＞

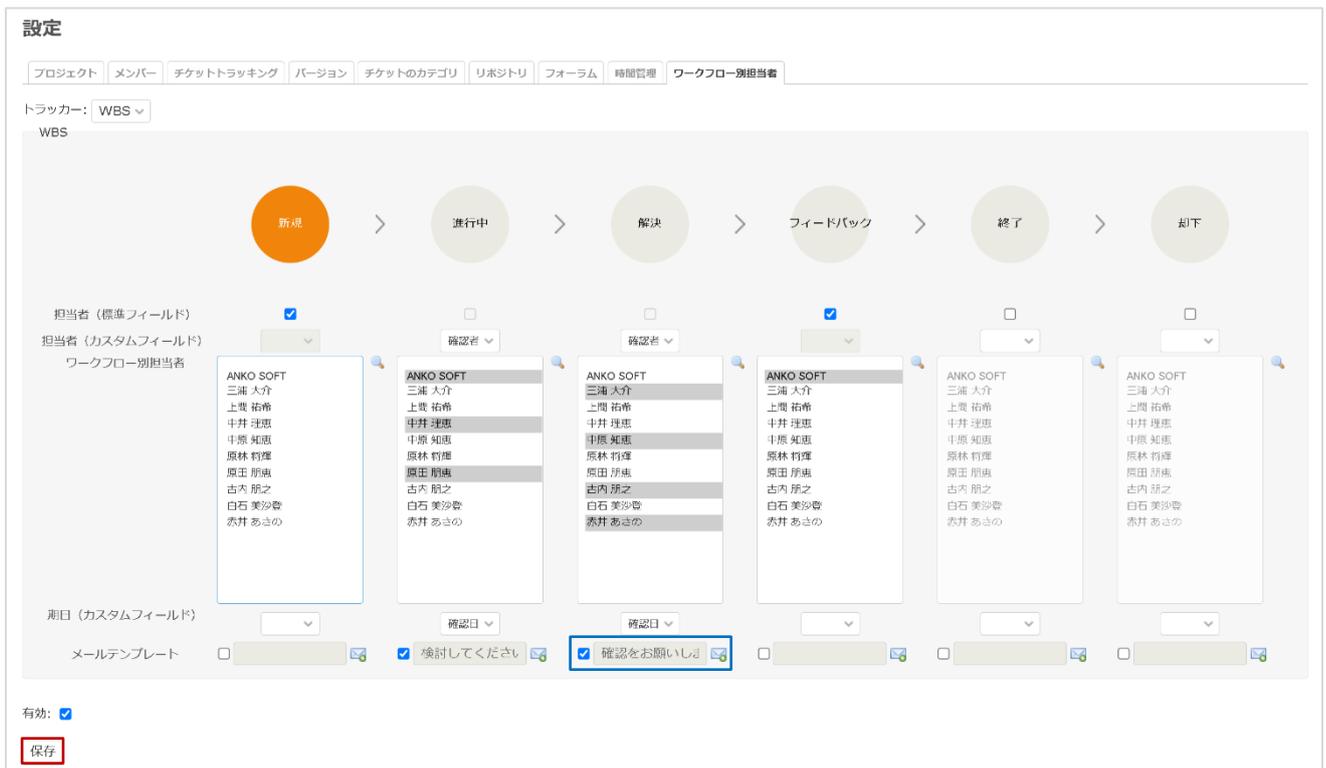
4.8 メールテンプレート設定

- 1) ワークフロー別担当者が指定されたら、該当担当者へ送信するメールテンプレートを設定します。
- 2) メールアイコンをクリックしたら、「メールテンプレート」ポップアップが表示されます。
- 3) 設定しようとするメールテンプレートの名称をクリックします。



<メールテンプレートポップアップ画面>

- 4) 「保存」ボタンをクリックして保存します。



<メール テンプレートが設定された画面>

4.9 期日に伴う定期メール送信

- 1) ワークフロー別に期日に設定した日が近づいたり、遅延した場合にメールを送信します。このためには下記のように設定してください。
- 2) 「期日（カスタムフィールド）」と「メールテンプレート」が設定されている必要があります。

設定

プロジェクト | メンバー | チケットトラッキング | バージョン | チケットのカテゴリ | リポソトリ | フォーラム | 時間管理 | ワークフロー別担当者

トラッカー: WBS

WBS

新規 > 進行中 > 解決 > フィードバック > 終了 > 却下

担当者（標準フィールド） 確認者 確認者

担当者（カスタムフィールド）
ワークフロー別担当者

担当者	確認者	確認者			
ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉穂 原田 朋恵 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉穂 原田 朋恵 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉穂 原田 朋恵 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉穂 原田 朋恵 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉穂 原田 朋恵 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの	ANKO SOFT 三浦 大介 上間 祐希 中井 理恵 中原 知恵 原林 莉穂 原田 朋恵 古内 朋之 白石 美沙登 赤井 あさの

期日（カスタムフィールド） 確認日 確認日

メールテンプレート 検討してください 確認をお願いし

有効:

保存

<ワークフロー別担当者設定画面>

- 3) 「期日（カスタムフィールド）」で設定したフィールドに値が入力されている必要があります。

編集

プロパティの変更

プロジェクト * openaim workflow autoassignee プライベート

トラッカー * WBS

題名 * 開発の進捗確認

説明

ステータス * 解決 親チケット

優先度 * 通常 開始日 2021/11/18

担当者 三浦 大介

確認者 << 自分 >>
ANKO SOFT
三浦 大介
上間 祐希

確認方法
中 A-1
A-2
A-3
B-1

時間を記録
作業時間 時間 作業分類 --- 選んでください ---

コメント

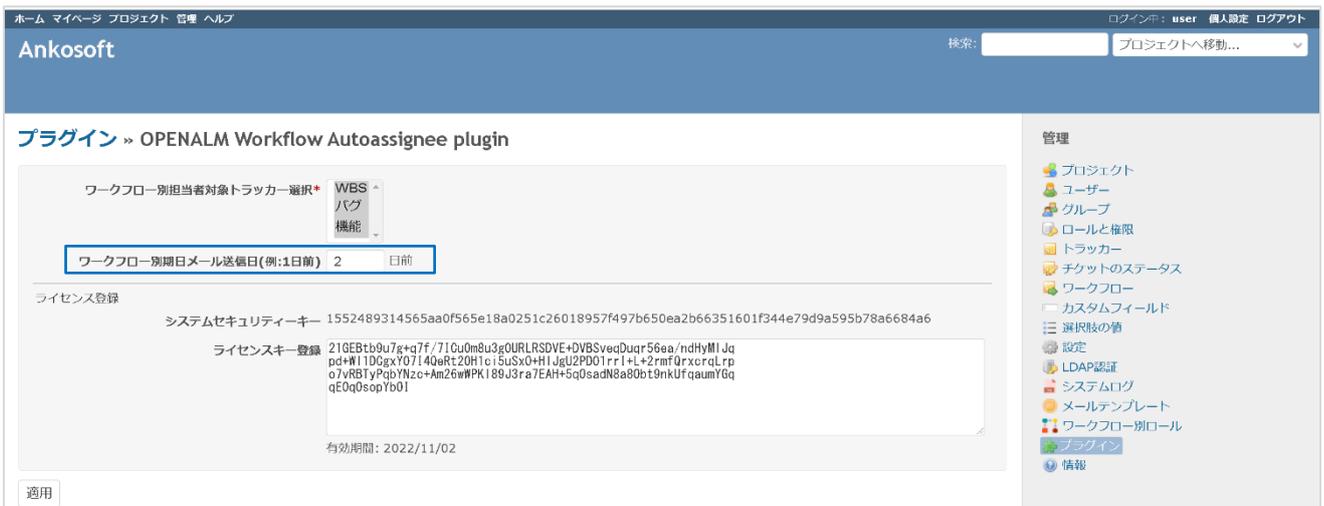
編集 | フレビュー | B | I | U | C | H1 | H2 | H3 | ...

ワークフロー別担当者

ステータス	担当者（カスタムフィールド）	担当者	期日対象項目	期日
新規	担当者	ANKO SOFT		
進行中	担当者	三浦 大介		
解決	担当者	三浦 大介	確認日	2021/11/19
フィードバック	担当者	ANKO SOFT		
終了				
却下				

<ワークフロー別担当者ポップアップ画面>

- 4) プラグインの設定で「ワークフロー別期日メール送信日」が設定されている必要があります。



<プラグイン設定画面>

- 5) Redmine がインストールされた OS 別に下記のスケジューラーを登録してください。

*Linux (bitnami) 系列の場合

crontab を利用してスケジューラーを登録します。crontab の使用方法に対しては、ここでは具体的には説明をしません。必要であればインターネット検索を通して crontab の使用方法をご確認ください。下記の設定は月曜日から金曜日、午前 7 時に送信するように設定する例示です。

```
#crontab -e

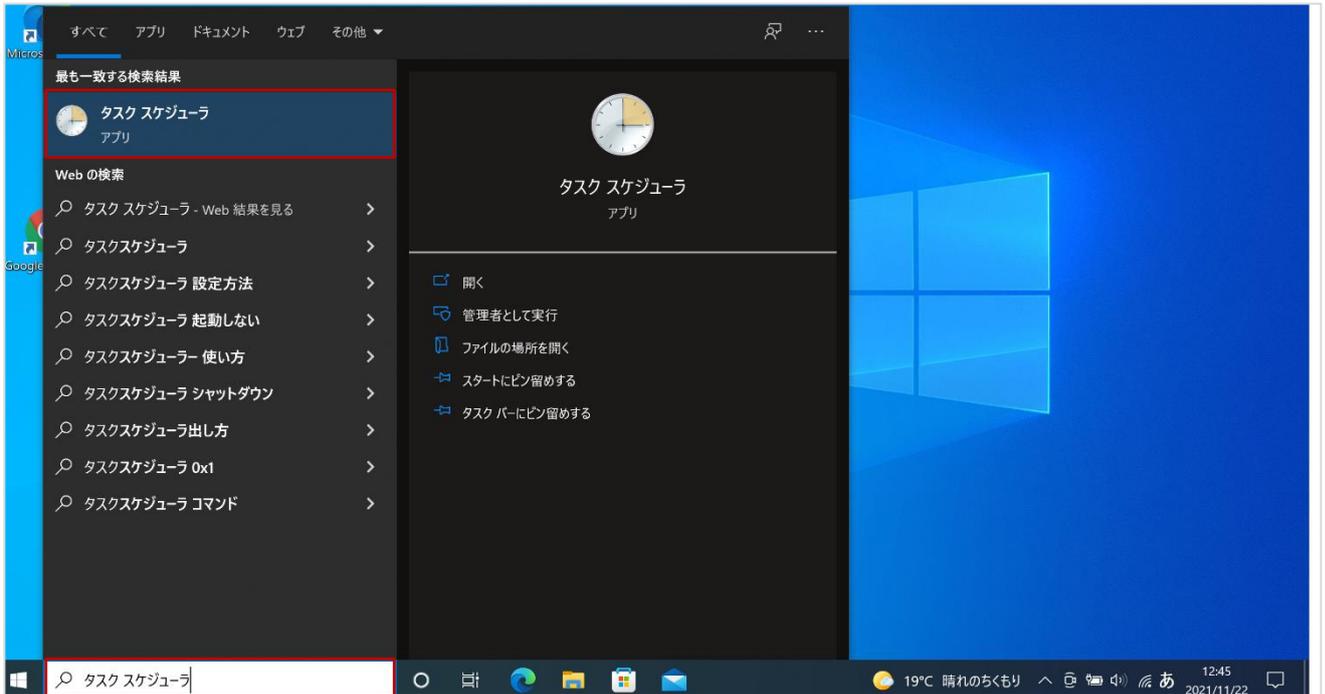
i を入力後、下記のコマンドを入力して ESC キーを押して、w キー-q キーを入力して保存します。
00 07 * * 1-5 curl http://127.0.0.1/redmine/workflow_autoassignee/reminder_email_send

#service crond restart
```

<crontab 登録画面>

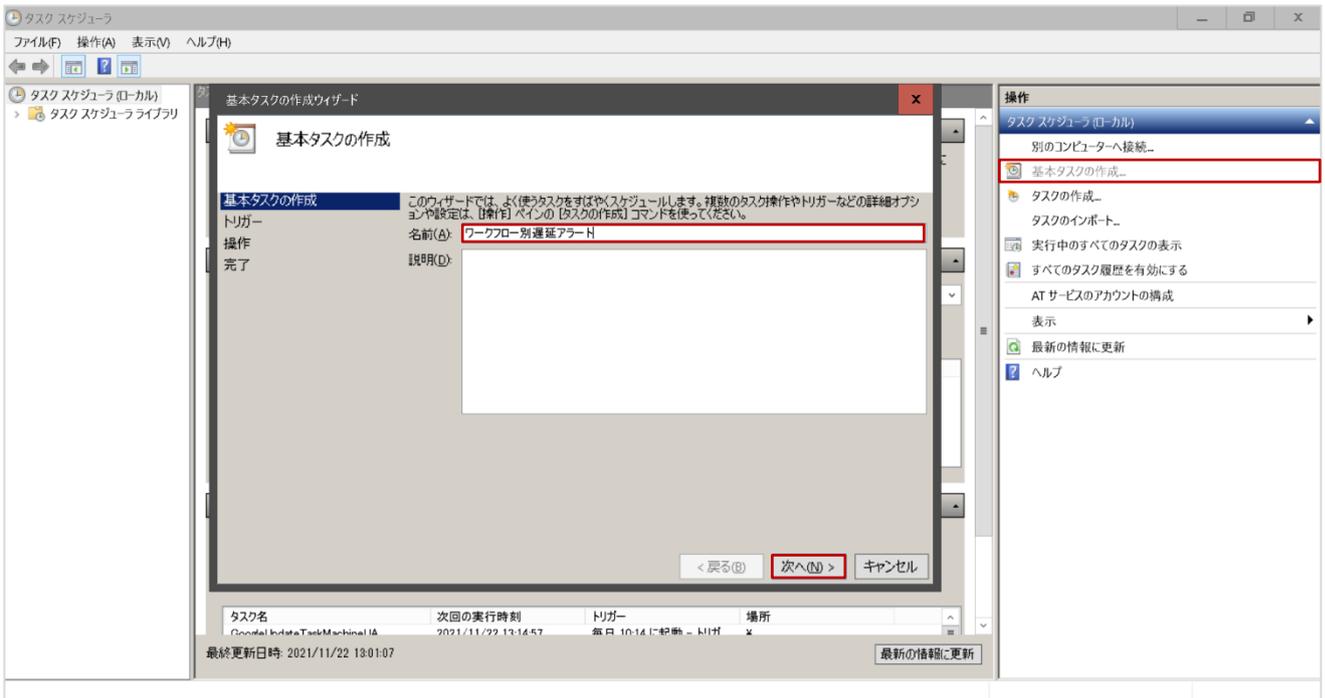
*Windows (bitnami) 系列の場合

- 「タスクスケジューラ」を検索して実行します。



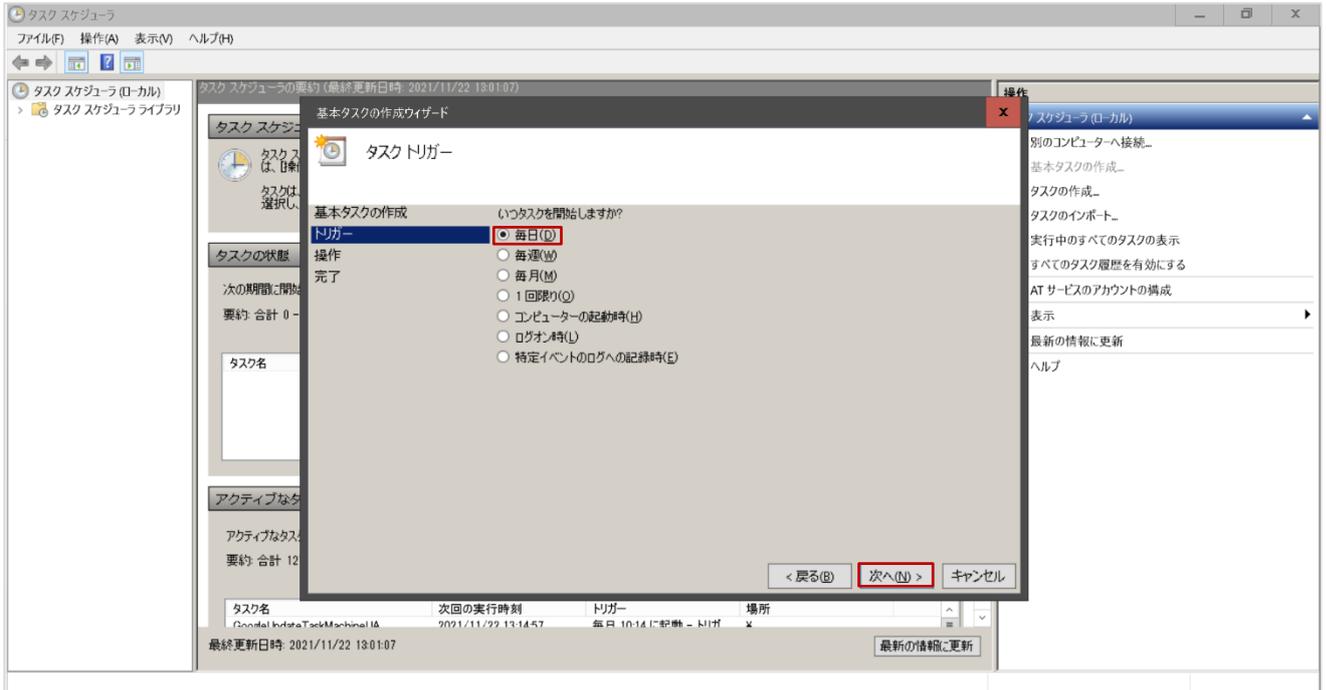
<「タスクスケジューラ」実行画面>

- 「基本タスクの作成」をクリックして、「名前」を入力して「次へ」をクリックします。



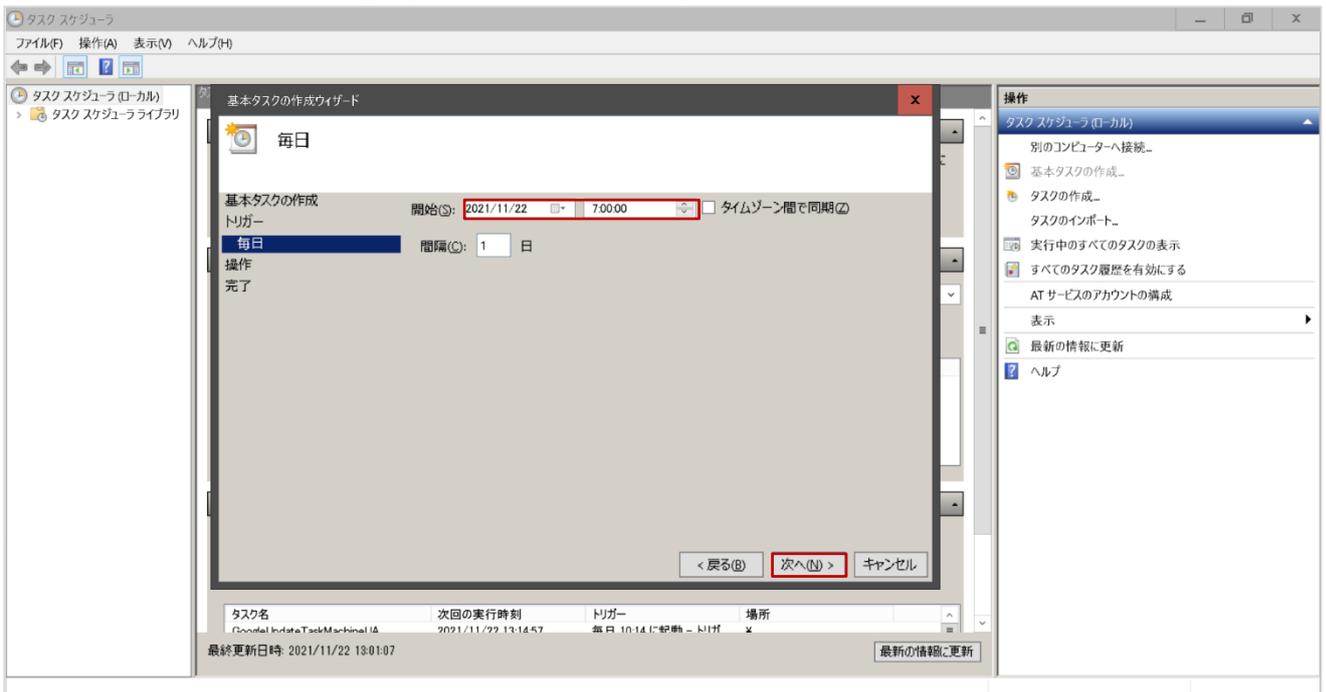
<「基本タスクの作成」画面>

- 「毎日」を選択して、「次へ」をクリックします。



<「タストリガー」画面>

- 開始日と時間を入力して「追加」ボタンをクリックします。



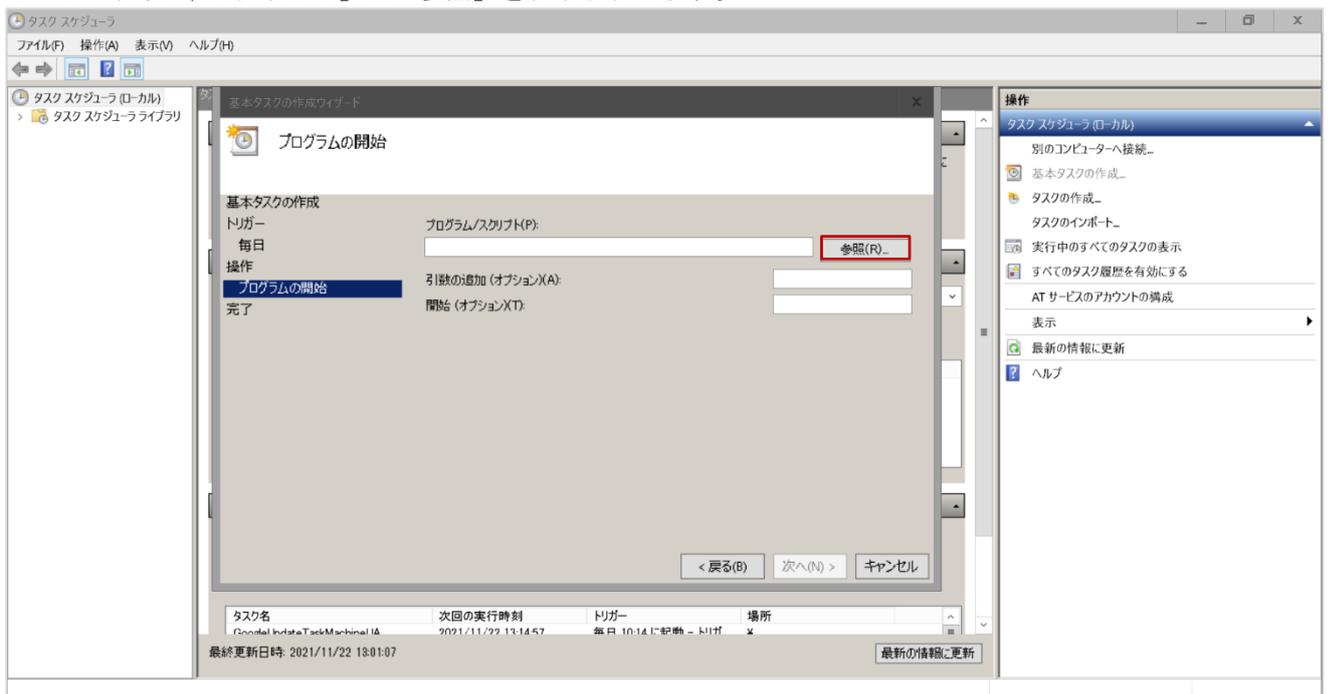
<「タストリガー」画面>

- 「プログラムの開始」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



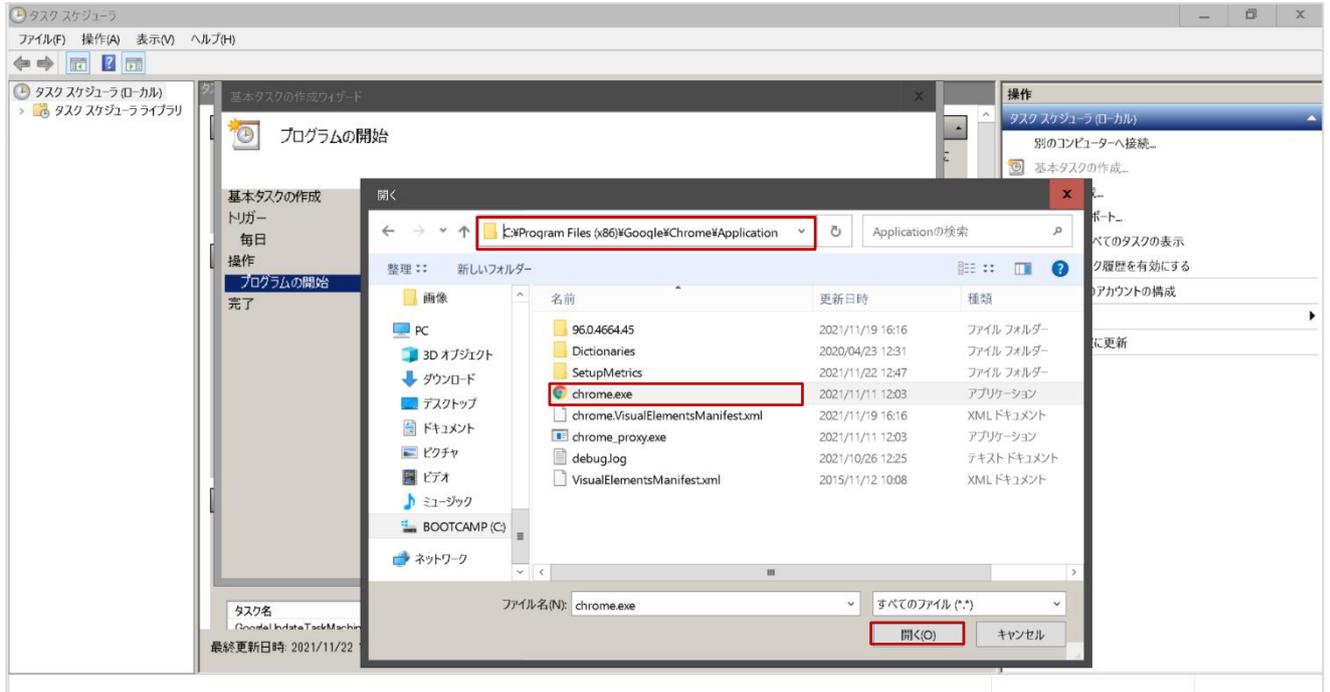
< 「操作」 選択画面 >

- 「プログラム/スクリプト」の「参照」をクリックします。



< 「プロジェクトの開始」画面 >

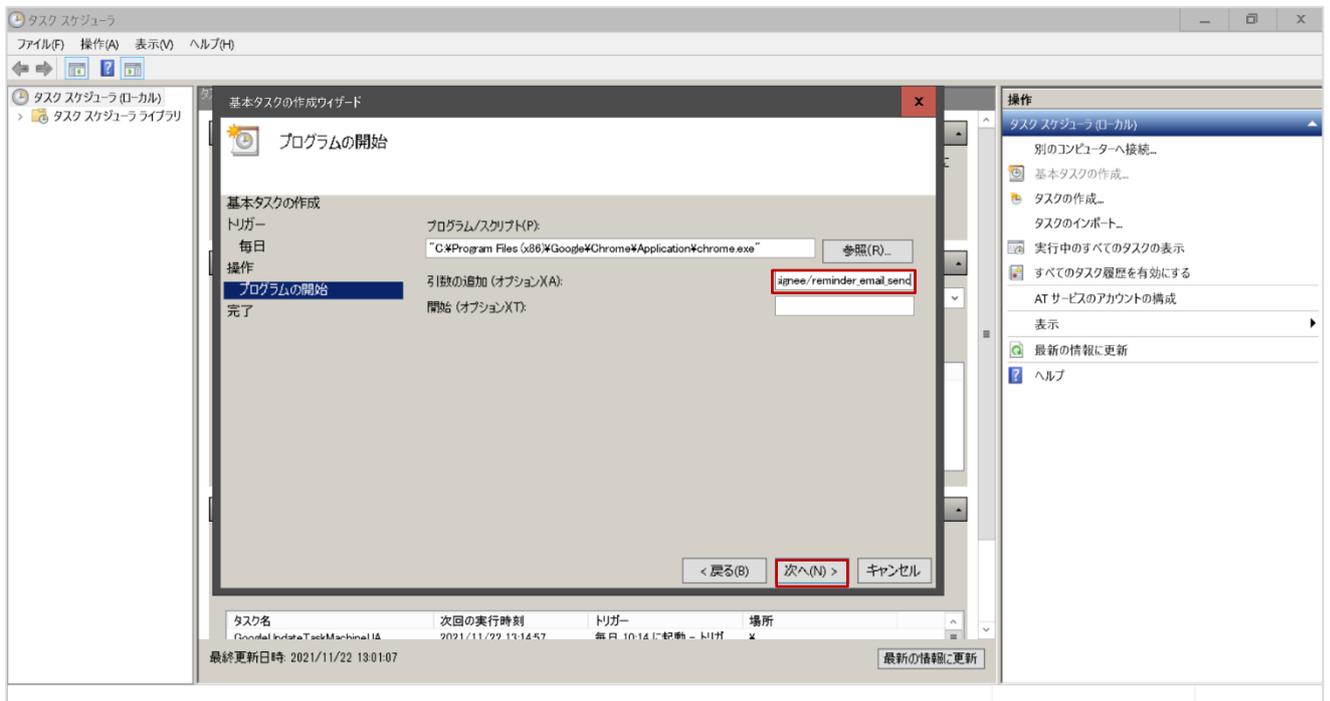
- ブラウザの exe ファイルを選択して、「開く」をクリックします。



<ブラウザの exe ファイル選択画面>

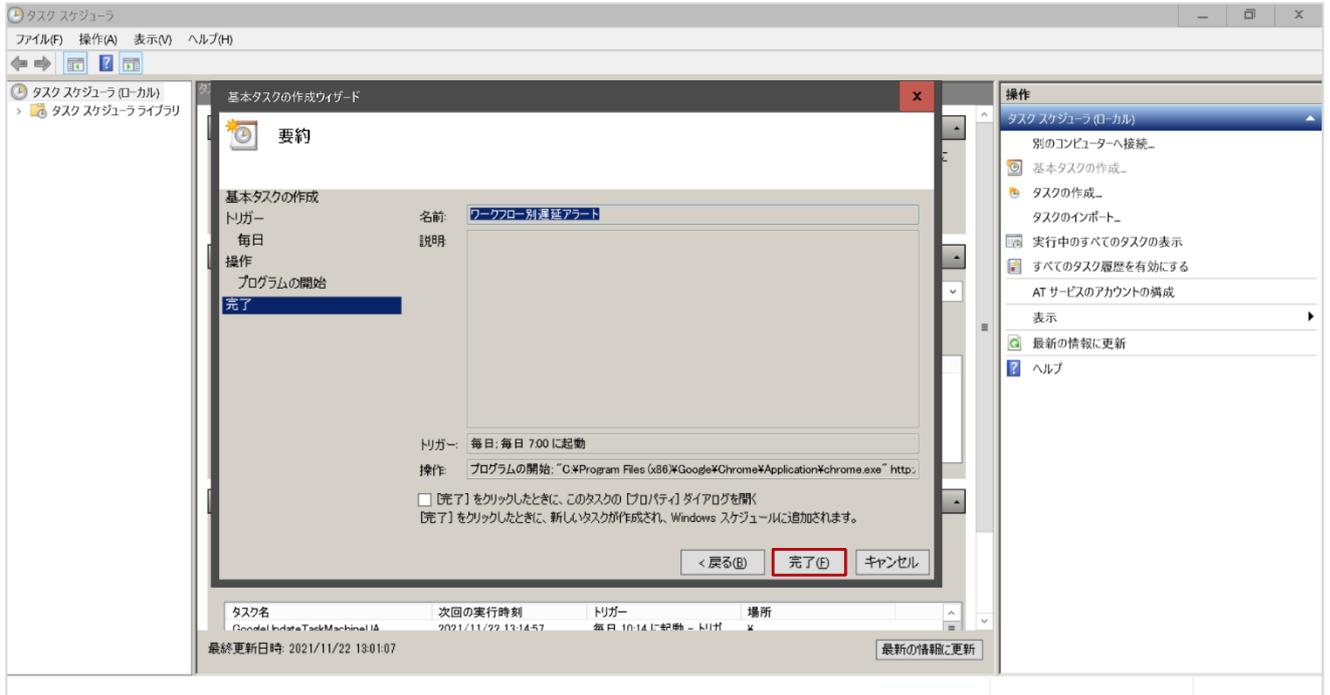
- 「引数の追加 (オプション)」に

http://127.0.0.1/redmine/workflow_autoassignee/reminder_email_send (bitnami の場合のパスです。パスは redmine をインストールした環境により異なります。)を入力して「次へ」をクリックします。



<「引数の追加 (オプション)」画面>

- 「完了」ボタンをクリックしてスケジューラの登録を完了します。

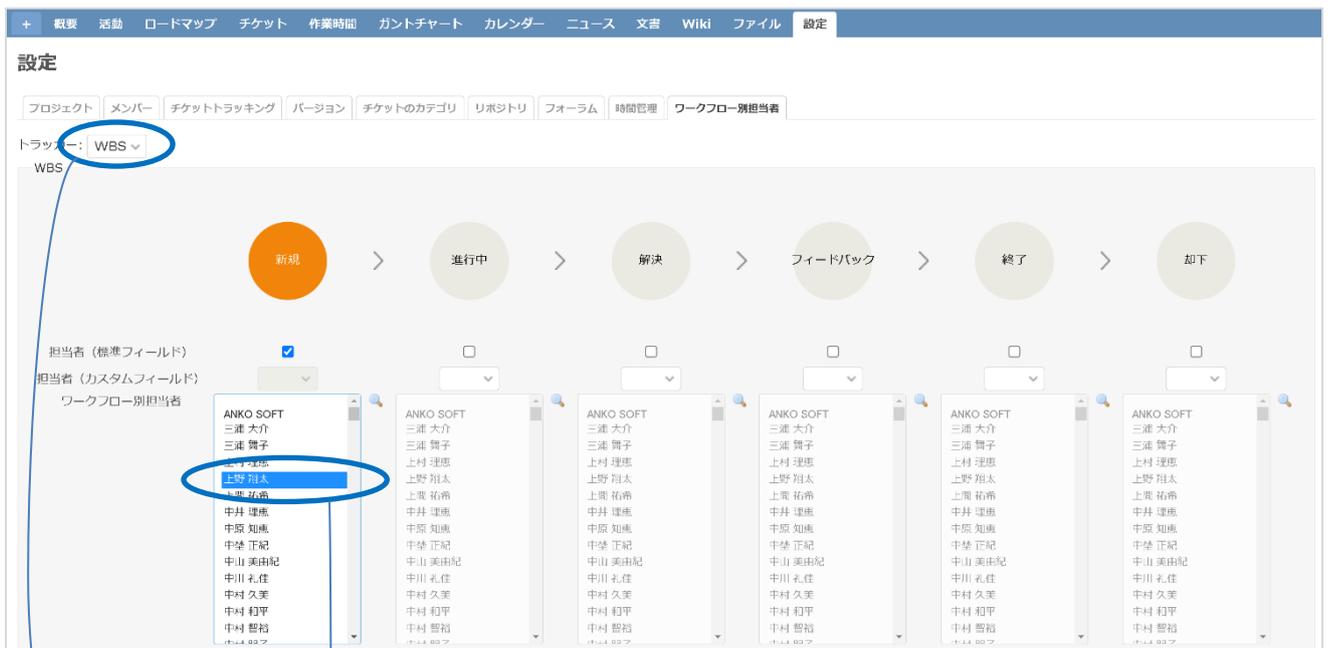


<「基本タスク」の登録完了画面>

5. 各機能の使用方法

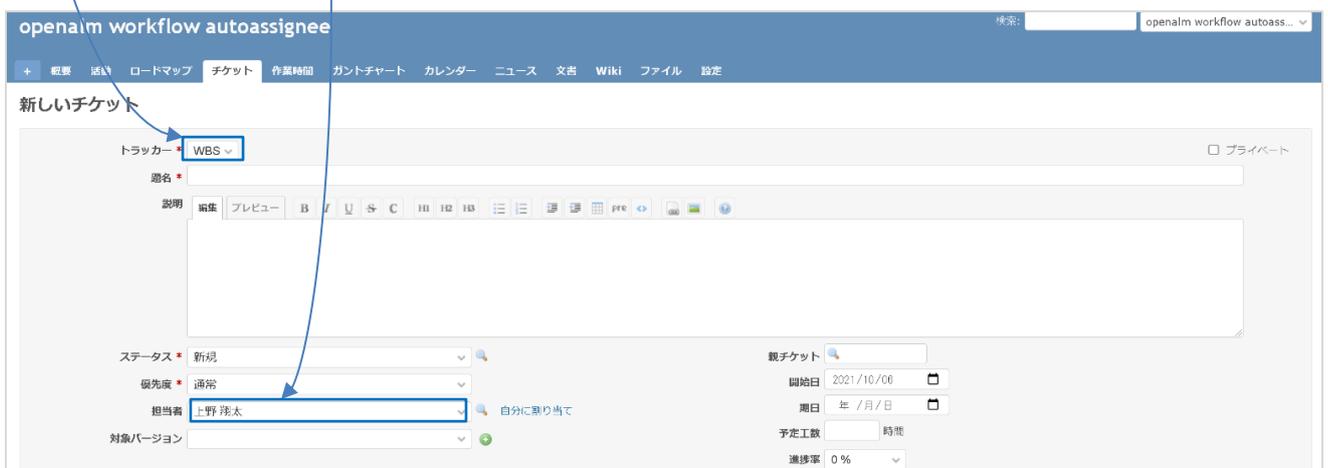
5.1 チケット新規登録

- 「ワークフロー別担当者」で新規チケットでの担当者が指定されている場合、該当プロジェクトの該当トラッカーでチケットを新規に登録する時に該当担当者が自動的に選択されます。「ワークフロー別担当者」で新規チケットでの担当者が設定されていない場合は、新規チケットを登録しても担当者欄は無選択状態になります。



<ワークフロー別担当者設定画面>

- この例示では、上の設定で「WBS」トラッカーの新規ステータスの時の担当者が「上野 翔太」というユーザーが指定されているため、チケットを新規作成時に担当者欄に「上野 翔太」が自動的に入力されます。メールテンプレートがオンに設定されていればメール送信も同時に行われます。



<「担当者（標準フィールド）」の値が反映された画面>

5.2 チケットステータスの変更

- 1) チケットのステータスが変更されたらワークフロー別担当者として設定された内容が適用されます。例えば解決というステータスに変更した場合、「確認者」欄に「ワークフロー別担当者」で設定したユーザーが自動で指定されます。

<ワークフロー別担当者設定画面>

<「担当者（カスタムフィールド）」の値が反映された画面>

- 2) 設定されたワークフロー別担当者を閲覧することができます。ステータスの右側にある検索アイコンをクリックすると「ワークフロー別担当者」ポップアップが表示して、ワークフロー別担当者と期日が表示されます。



<ワークフロー別担当者閲覧画面>

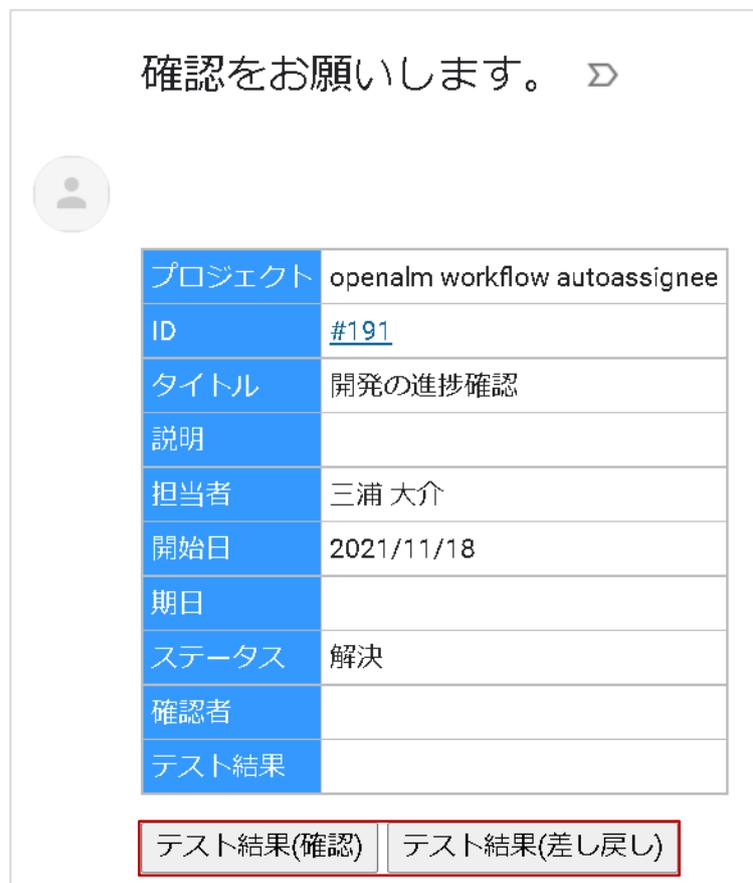
5.3 メールテンプレートでアップデート

- 1) メールテンプレートで送信したメールからチケットのアップデートをすることができます。下のようメールテンプレート画面の「ボタン」の項目に真偽値形式のカスタムフィールドが表示されます。任意のボタンを選択してください。選択しない場合は、「未指定」ボタンを選択してください。



＜メールテンプレートの真偽値ボタンが選択された画面＞

- 2) 受信したメールに表示されるボタンをクリックしてメール上から簡単にチケットのフィールドをアップデートができます。



<受信したメールにボタンが表示された画面>

- 3) 受信したメールの「テスト結果(確認)」ボタンをクリックすると、下図のように「テスト結果」フィールドの値が「はい」に変更されます。

WBS #191 未完了





...

開発の進捗確認
◀ 前 | 1/6 | 次 ▶

ANKO SOFT さんが4日前に追加, 5分前に更新.

ステータス:	解決	開始日:	2021/11/18
優先度:	通常	期日:	
担当者:	三浦 大介	進捗率:	<div style="width: 100px; height: 15px; background-color: #ccc; display: inline-block;"></div> 0%
確認者:		予定工数:	
テスト結果:	はい	中:	
確認方法:		小:	
		確認日:	2021/11/19

子チケット 追加

関連するチケット 追加

履歴 プロバティ更新履歴

ANKO SOFT さんが5分前に更新 ... #4

- テスト結果 を はい にセット

<チケットに反映された画面>

